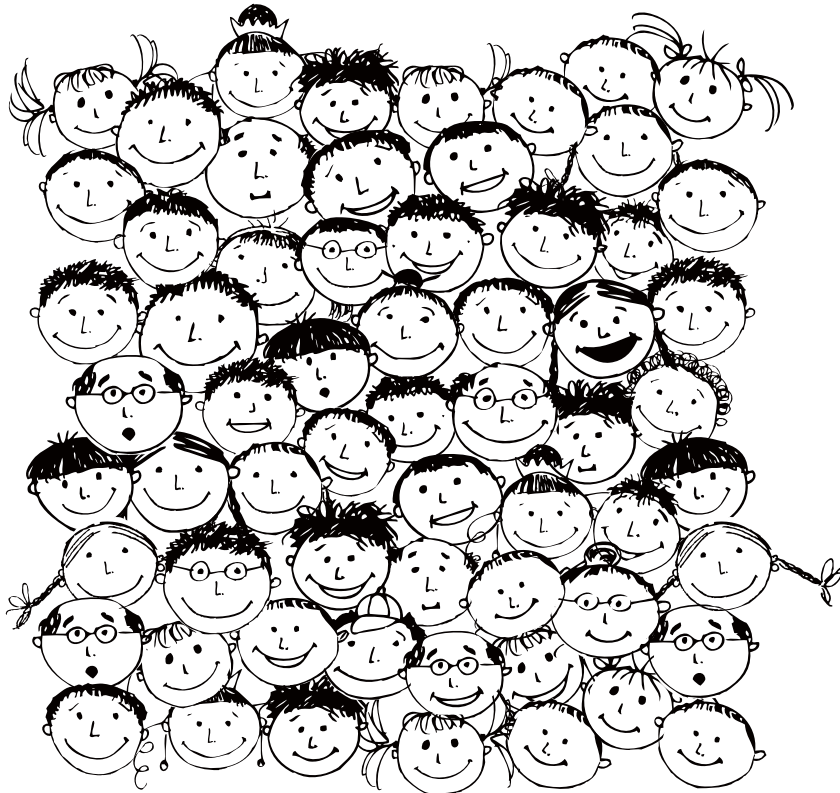


# ミュージアムを中心とした 地域の多文化共生プロジェクト報告書

2020



たまろくミュージアム多文化共生推進実行委員会

## 目次

はじめに .....	1
1. 事業概要 .....	3
2. たまろく多文化共生推進プロジェクト 2020 成果報告会 .....	7
2-1.開会のご挨拶 .....	7
2-2.プロジェクト概要紹介 .....	9
2-3.国内調査報告 .....	12
2-4.やさしい日本語プログラム .....	16
2-5.武蔵野大学 .....	18
2-6.海外にルーツを持つ子どもたちの現状 .....	23
2-7.全体質疑応答 .....	29
2-8.閉会のご挨拶 .....	34
3. やさしい日本語と博物館 .....	35
3-1.やさしい日本語の概要と事例 .....	35
3-2.多摩六都科学館の取り組み事例 .....	53
3-3.質疑応答 .....	57

## はじめに

1. 本報告書は、たまろく多文化共生推進委員会が、令和2年度文化芸術振興費補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」の助成を受けて行っている「ミュージアムを中心とした地域の多文化共生推進プロジェクト」の調査および事業の報告である。

2. 本プロジェクトの背景および目的を以下に記す。

日本の外国人登録者数は2013年以降年々増加していると言われている。出入国在留管理庁による調査では288万5,904人とされており(2020年6月末現在)、この数は日本の総人口の約2%にあたる。2019年4月に施行された「出入国管理及び難民認定法」により、外国人労働者の受入れが拡大された。我が国における外国人居住者支援の取り組みは、これまでも各地方自治体における多文化共生プランの策定、またそれらに基づいた事業が展開され、外国人居住者が通常の生活を送るための各種手続支援、日本語学習機会の提供、防災教育、地域住民との交流機会創出などが行われているが、公教育の現場での支援は十分とは言い難い状況にある。

ここ近年、博物館においても東京オリンピックを標準にあわせたインバウンド対応が進み、広報媒体を中心に多言語化が進められてきた。また、展示解説についてもICTによる多言語化や外国語を話すボランティアの育成および導入等、様々なニーズに応える取り組みが行われつつあるが、外国人居住者を対象に「多文化共生推進」を目的とした取り組みをしている博物館はあまり多いとは言えない。2019年度に実施した調査では、科学系博物館および東京都内の文化施設で、多文化共生に取り組んでいる施設は約1割であった。国内事例調査では限界があり、海外の具体的な取り組みを調査する必要がある。また、国内の博物館に対し、多文化共生の取り組み方についての普及や学ぶ機会も不足している。

多摩北部においても外国人居住者人口は増加の傾向にある。多摩北部の行政5市が連携して多文化共生に関する取組を推進している他、東村山市では独自の多文化共生推進プランの策定、小平市ではオリンピック開催にあわせておもてなし事業を展開している。しかしながら博物館から共働を働きかけることは難しく、かつ外国人居住者との接点を持つことができていないといった課題がある。

以上の現状を踏まえ、当館が目指すべき方向性として掲げる2つのミッション「誰もが科学を楽しみ、自分たちの世界をもっと知りたいと思える多様な学びの場をつくりあげること」、「活動の幅を拡げ人々をつなげ地域づくりに貢献すること」、第2次基本計画ローリングプラン2016「ソーシャル・インクルージョンに基づき、誰もが楽しみ、交流できる場をつくりあげること」の一プロジェクトとして、平成31年度に在住外国人をターゲットとした多文化共生推進プロジェクトを立ち上げた。

昨年度からの活動を通じ、少しずつではあるが多言語情報の充実化、研修を通じたスタッフの多文化共生社会の市民としての意識の醸成、地域の市民活動者との連携がようやく始まったところである。今年度の事業を終え、当館と市民や関係機関との連携を促進し、これらの活動が一過性のプロジェクトで終わらないような体制づくりが必要であるとともに、本活動をより多くの博物館関係者に広める必要性を実感している。

本報告書では、2021年2月23日(火)に実施した成果報告会を元に、2020年5月～2021年2月に行った本プロジェクトの概要を報告する。

3. 本プロジェクトの実施にあたっては、下記の実行委員会および事務局を組織し、会議を設け意見交換や報告会を行った。また、必要に応じてアドバイザーや講師を招聘し、関係機関のヒアリング調査、プログラムの企画・実施・評価、やさしい日本語の普及講座および今年度の成果報告会を行った。

#### ●実行委員会

会長	高柳雄一	多摩六都科学館館長
副会長	山辺真理子	NPO 法人西東京市多文化共生センター代表理事
委員	チョウ・チュンニ	ICOM- CAMOC(都市博物館国際委員会)理事
委員	村澤慶昭	武蔵野大学教授
委員	廣澤公太郎	多摩六都科学館統括マネージャー
監事	手塚光利	多摩六都科学館組合事務局長
事務局長	高橋純一	多摩六都科学館経営管理グループ リーダー
事務局	高尾戸美	多摩六都科学館研究・交流グループ リーダー
	石山彩	多摩六都科学館 PR グループ リーダー
	安倍覚子	多摩六都科学館 PR グループ
	蓮田安紀	多摩六都科学館 PR グループ
	佐怒賀陽子	多摩六都科学館経営管理グループ
	原窓香	多摩六都科学館組合

#### ●協力者

- ・朝倉民枝(株式会社グッド・グリーンフ)
- ・石川秀樹(清瀬市議会議員)
- ・石川睦美(くるめアパートメント)
- ・稲庭彩和子(東京都美術館)
- ・岩崎比奈子(武蔵野大学)
- ・筋野美穂(多摩六都科学館研究交流グループ)
- ・田淵陽子(東久留米国際友好クラブ)
- ・戸嶋浩子(ひらがなネット株式会社)
- ・中村晋也(ヤギサワベース)
- ・成瀬裕子(多摩六都科学館天文グループ)
- ・服部勝孝(映像作家)
- ・ピッチフォード理絵(NPO 法人青少年自立支援センター)
- ・藤浦五月(武蔵野大学)
- ・藤本かおる(武蔵野大学)
- ・三ツ木紀英(NPO 法人芸術資源開発機構)
- ・村田陽次(東京都生活文化局)
- ・湯浅佳世子(多摩六都科学館アテンダントグループ)
- ・吉澤弥重子(ひらがなネット株式会社)
- ・赤崎文音(学生)
- ・赤澤香(red design 合同会社)
- ・五嶋友香(学生)
- ・篠原京子(西東京市社会福祉協議会)
- ・内藤そよ香(学生)

## 1. 事業概要

---

# 1. 事業概要

## (1) 本事業が目指すもの

多摩六都科学館では、科学館の目指すべき姿として、第2次基本計画ローリングプラン 2016 において、「ソーシャル・インクルージョンに基づき、誰もが楽しみ、交流できる場をつくりあげること」を掲げていることは前述したが、これらに基づき立ち上げられた多文化共生推進プロジェクトでは、多摩北部の博物館が多文化共生社会を担う場を実現する場になること、これらが我が国の地方都市博物館の多文化共生モデルとなることを目指し、以下の3つを目的としている。

- ① 我が国の博物館における外国人居住者に対する事業の現況を明らかにする。
- ② 地域の多文化支援実践者と共に、外国人居住者向けサービスの向上を目指した博物館の環境整備および教育プログラムの企画開発を実施、評価を行うとともに、多摩地域および本テーマに興味関心を持つ人々のコミュニティを構築する。
- ③ ICOM 京都 2019 の開催をきっかけに、多摩北部と世界中の博物館関係者が多文化共生をテーマとした取組について情報交換や相互協力の機会を創出する。

- ・ 博物館が在住外国人と共に学びあい、地域との交流促進の場になる
- ・ 当館の活動をきっかけに多文化共生推進の輪が全国に広まっていく



図1 多摩六都科学館が目指す多文化共生推進モデルのイメージ

## (2)本事業の計画

本事業では、既述の目的に沿って、①博物館等における多文化共生の取り組み実態調査、②科学館の多文化共生および多言語化のサービス向上のための環境整備、③地域在住外国人向けの特別プログラムの開発・実践・評価、④ICOM 京都 2019、都市博物館国際委員会(CAMOC)との共催事業の開催、⑤博物館と多文化共生に関する講演会およびワークショップの開催、⑥博物館における多文化共生の取り組みに関するシンポジウムの開催の6つを計画している。

## (3)各年度の実施事業

### 【2019 年度】

2019 年度は、①博物館等における多文化共生の取り組み実態調査、②科学館の多文化共生および多言語化のサービス向上のための環境整備、③地域在住外国人向けの特別プログラムの開発・実践・評価、④ICOM 京都 2019、都市博物館国際委員会(CAMOC)との共催事業の開催を実施した。詳細については、『ミュージアムを中心とした地域の多文化共生推進プロジェクト 2019 報告書』で報告している。

#### ① 博物館等における多文化共生の取り組み実態調査

##### ●国内の博物館における在住外国人を対象とした取り組みアンケート調査

全国科学博物館協議会加盟館、全国科学博物館連携協議会加盟館、東京都内文化施設の計 540 館を対象に、2020 年 1 月 20 日～2 月 18 日の 39 日間実施した。本調査の回収結果は、回収数 310 件でそのうち有効回答数は 308 件、有効回答率は 57%であった。

##### ●国内の博物館その他の多文化共生の先進事例ヒアリング調査

- ・豊橋市中央図書館(2019 年 7 月 17 日実施)
- ・一般社団法人 kuriya(2019 年 10 月 31 日実施)
- ・アーツ前橋(2019 年 12 月 9 日に実施)
- ・北九州市いのちのたび博物館(2020 年 2 月 6 日実施)

#### ② 科学館の多文化共生および多言語化のサービス向上のための環境整備

- 多摩六都科学館 WEB へのやさしい日本語ページの実装(2020 年 2 月 18 日公開)
- やさしい日本語スタッフ研修(2019 年 10 月 10 日実施)

#### ③ 地域在住外国人向けの特別講座の企画・開発・実践

- 「科学館の絵本をつくろう」(2020 年 1 月 12 日実施)
- 「やさしい日本語でプラネタリウムをたのしもう」(2020 年 1 月 18 日実施)

#### ④ ICOM 京都 2019、都市博物館国際委員会(CAMOC)との共催事業の開催

- ICOM 京都 2019 大会後のポストカンファレンスツアー(2019 年 9 月 8 日実施)

## 【2020 年度】

2020 年度は、①博物館等における多文化共生の取り組み実態調査、②科学館の多文化共生および多言語化のサービス向上のための環境整備、③地域在住外国人向けの特別プログラムの開発・実践・評価、④博物館と多文化共生に関する講演会およびワークショップの開催、開催を実施した。

### ① 博物館等における多文化共生の取り組み実態調査

#### ●国内の博物館その他の多文化共生の先進事例ヒアリング調査

- ・YSC グローバルスクール(2020 年 7 月 7 日実施) 対応者:ピッチフォード理絵氏
- ・東京都美術館(2020 年 10 月 31 日実施) 対応者:稲庭彩和子氏

### ② 科学館の多文化共生および多言語化のサービス向上のための環境整備

#### ●多摩六都科学館 WEB へのやさしい日本語を用いた情報発信(毎月イベント情報を公開)

#### ●やさしい日本語スタッフ研修(2020 年 9 月 4 日実施) 講師:有田玲子氏(ひらがなネット株式会社)

- ・スタッフ等 39 名、その他関係者計 49 名参加
- ・在住外国人8名を相手にしたコミュニケーション研修

#### ●日本語/英語によるガイドブック制作(2021 年3月発行)

#### ●多言語セルフガイドの制作(2021 年3月発行)

- ・5つの展示室ごとの3つの展示を解説
- ・日本語、やさしい日本語、英語、中国語、韓国語

### ③ 地域在住外国人向けの特別講座の企画・開発・実践

#### ●「科学館の絵本をつくろう」(2020 年 10 月 12 日実施) 講師:朝倉民枝氏(株式会社グッド・グリーン)

- ・4 組 8 名参加

#### ●「やさしい日本語でプラネタリウムをたのしもう」(2020 年 12 月 18 日実施) 講師:成瀬裕子

- ・58 名参加

#### ●武蔵野大学連携プロジェクト

- ・日本語コミュニケーション学科 1 年 88 名が受講(半数は留学生)
- ・2020 年 6 月～7 月にオンライン講義として実施
- ・グループワークで当館のプロモーションムービーを作成
- ・優秀作品4本(日本語版 3 本、中国語版1本)を当館公式 youtube に公開(2020 年8月公開)
- ・有志による当館見学会を 10 月 20 日に実施

### ④ 博物館と多文化共生に関する講演会およびワークショップの開催

#### ●多文化共生プロジェクトオンライン成果発表会(2021 年2月23日に実施)31 名参加

#### ●やさしい日本語と博物館・オンライン講座(2021 年2月23日に実施)51 名参加

#### ●その他、研究発表等



・令和 2 年度学芸員技術研修会「ユニバーサル・ミュージアムⅡ(やさしい日本語)」

開催日時:2020 年 9 月 15 日(火)10:00~17:00(9:30~受付開始)

開催場所:鹿児島国際大学(鹿児島県鹿児島市坂之上 8-34-1)

主催:「博物館と医療・福祉のよりよい関係づくり」の構築に向けた博物館マネジメント人材  
育成事業実行委員会(九州産業大学美術館他 6 館)

内容:事例紹介として本プロジェクトの事例紹介を行った(高尾戸美)

受講者数:30 名(鹿児島 21 名、宮崎 2 名、福岡 4 名、東京 3 名)

・やさ日フォーラム

開催日時:2021 年2月9日(火) 14:00~16:15

開催場所:東京都つながり創生財団 会議室 ※ウェビナーによるオンライン開催

対象者:都内区市町村、国際交流協会、社会福祉協議会等の職員

内容:教育文化分野での活用事例として、多摩六都科学館の「やさしい日本語」プラネタリウム&スタ  
ッフ研修について発表を行った(高尾戸美)

受講者数:298 名

・全国科学博物館協議会第 28 回研究発表大会

開催日時:2021 年2月 26 日(金)9:00~16:55

開催場所:※ウェビナーによるオンライン開催

対象者:全国科学博物館協議会加盟館

内容:研究発表として、本プロジェクトの調査結果の一部および活動事例紹介を行った(高尾戸美)

・受講者数:203 名

## 2. たまろく多文化共生推進プロジェクト 2020 成果報告会

---

日 時

2021年2月23日(火・祝) 14:00~16:00

会 場

オンライン開催

## 2-1.開会のご挨拶

---

高尾:皆さま、こんにちは。私は多摩六都科学館の高尾と申します。今日はお忙しい中、当館のたまろくミュージアム多文化共生推進プロジェクト 2020 成果報発表会にお集まりいただきありがとうございます。

開会に先立ちまして、当館の館長である高柳雄一よりご挨拶をお願いしたいと思います。高柳館長お願いいたします。

高柳:皆さん、今日は、午前中に開催されたイベント「やさしい日本語と博物館」では、やさしい日本語が必要とされる現場で実施されている具体的な取り組みが紹介されていました。



長年、放送現場でラジオやテレビの番組を担当してきましたが、その際に意識したことは、耳で聞いて伝わるやさしい日本語、言いかえると、やさしい話し言葉を的確に使うことに努めていましたから、私もやさしい日本語を心がけて仕事をしてきたことに気づかされました。ただ、書き言葉に関しては、テレビ画面ではスペースが限られていて、いつも

簡潔に意味が取れる短い表現に拘っていました。見てわかる言葉で、どれだけやさしい日本語を意識できたのか、今朝の紹介事例を伺いながら、そんな反省もさせられました。

やさしい日本語に関するお話を聞いていて、何故、私がやさしい日本語を使う必要を何時も感じていたのかを考えると、私の伝えたい内容が科学の話題だったことが一つの理由になっています。

私は最新科学の話題をテレビで紹介する放送番組をいくつも担当しました。科学の話題では専門用語とか、一般社会の人々にとっては耳慣れない言葉がいくつも登場します。そうしたとき、皆さんが日常生活で使っている、やさしい日本語で内容を紹介しながら、最後には皆さんに紹介したい話題が、実は皆さんと無関係ではなく、皆さんが生きていくうえで役に立つ事柄であり、もっと知りたいと思っていたきたいと、願っていたことを思い出します。

それから、やさしい日本語を使う際に留意した点でもう一つ思い出したことがあります。私のやさしい日本語の使い方は、今朝のお話を当てはめると、やさしい日本語と、高度な専門的な知識の間を「やさきくん」が橋渡しをすることになります。その意味では、私は番組を通して、やさしい日本語で示される世界から科学の世界へ繋がる橋渡しを一生懸命やってきたわけです。

その時、大事なことが一つありました。それは、橋を渡ったら向こうに何があるのか、絶えず興味をつないでおくということでした。たぶん、やさしい日本語の「やさカニくん」がわたる橋の向こう側には、あまり興味がなく、なかなか橋を渡る気はしない人でも、話を聞いて渡ってみたいと思わせるような、そういうやさしい日本語の使い方、気配り、思いやりも必要なのだと思います。

そういうことを何時も考えてきましたので、やさしい日本語だけではなく、「やさカニくん」が渡る橋の先、ある意味では方向づけも必要だと感じています。

ウェルビーイングという言葉が出てきましたが、私たちにとってウェルビーイングにたどり着くための方向を見失わず、いつも前に進んで行ってみたい、と思わせるコミュニケーションを考えて、私はやさしい日本語を使ってきました。

これから皆さんがいろいろな試みをされることで、色々な視点の存在にもお気づきになることと想像しております。ぜひこの機会を利用して、皆さんがお互いに役に立つ体験をされることを願っています。

## 2-2.プロジェクト概要紹介

多摩六都科学館研究交流グループリーダー  
高尾戸美

多摩六都科学館の高尾です。本プロジェクトの概要をご説明差し上げます。よろしくお願いいたします。



### (1)科学館概要説明

多摩六都科学館は東京都の多摩北部の 5 つの市が、共同で設置・運営する科学館です。5 つの市と申し上げましたが、そのうちの西東京市はかつて田無市と保谷市でした。この 2 つと、その他 4 市を合わせると、6 つの市になります。それが多摩六都の名前の由来となっています。1994 年にオープンしました。2012 年からは、指定管理者制度が導入されまして、乃村工藝社が運営しています。昨年度の来館者数は 22 万 5,867 人です。こちらは、コロナの影響を受けまして、1 ヶ月、3 月は休館しましたが、その数を除く数となっております。もし、コロナがなければ過去最高の来館者数を迎えていたかもしれません。

当館には、大きなプラネタリウムドームがあります。ドーム直径は世界第 4 位です。世界で最も多くの星を投影することができる、プラネタリウム投影機

ケイロンⅡを持っています。また、多摩六都科学館には 5 つの常設展示室があります。今ご覧になっている 5 つの展示室では、いろいろな体験をすることができたり、魚を見たり、化石の標本に触るなどの体験をすることができます。先ほどのプラネタリウムや、こちらの展示室を使って、多文化共生のプログラムを実施しましたので、後ほどご紹介したいと思います。

### (2)多文化共生推進プロジェクトについて

なぜ私たちは、科学館という施設でありながら、多文化共生に取り組むのでしょうか。おそらく、多くの皆様はこちらに疑問を感じているのではないかと想像しています。

私たちがこのプロジェクトを立ち上げた背景は、博物館である私たちが地域社会の一員として社会課題に対し、どのようなことができるのか。そのことについて、まず考えました。

博物館が地域社会に存続する意義ということにも関わります。そしてそれらは、社会課題と掛け合わせることで、もしかしたら私たちのいる意味というのが、さらに深まるのではないかと考えました。

多摩六都科学館は、科学館として目指す方向性を大きく二つ持っています。一つ目は、ミッションで

2つのミッションを持っています。誰もが科学を楽しみ、自分たちの世界をもっと知りたいと思える多様な学びの場を作り上げること。活動の幅を広げ、人々を繋げ、地域づくりに貢献することです。「地域づくりに貢献すること」は当館の特徴であると考えています。

二つ目は、中長期計画にあたる第2次基本計画です。ローリングプラン2016に新たに「ソーシャルインクルージョンに基づき、誰もが楽しみ、交流できる場を作り上げること」という目標が追加されました。私は、その中でも国内の在住外国人の取り巻く環境の変化ということに着目しました。

多摩北部の人口の変化について一緒にみていきたいと思います。画面では2010年と2020年の人口を表しています。10年間の増加数をごらんください。地域全体では人口が、1万2,000人ほど増えております。そのうちの外国人が占める割合でみると、実は約74%が外国人ということがわかります。つまり、当地域では外国人の方が非常に増えていることがわかります。

このような背景から、在住外国人を対象とした活動を文化庁の助成事業を受けて実施したいと考えました。平成31年度、令和2年度と2年間助成を受け、様々な方と共に活動を行っています。

たまろくミュージアム多文化共生推進実行委員会は、多摩六都科学館、そして行政にあたる多摩六都科学館組合、地域のNPO団体である西東京市多文化共生センターそして武蔵野大学、また在住外国人・博物館有識者などで構成されています。

私たちが一緒に目指しているものは、博物館が、在住外国人と共に学び合い、地域との交流促進の

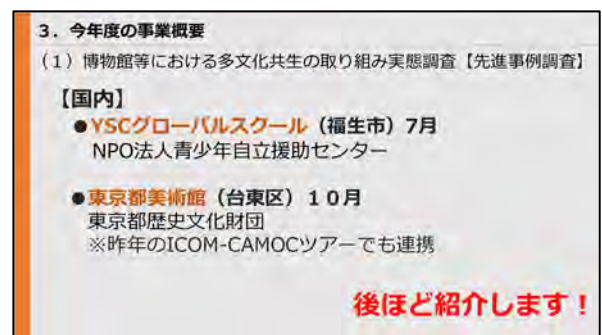
場になること、当館の活動をきっかけに、多文化共生推進の輪が全国に広まっていくことです。

事業目的は、博物館を中心とした多文化共生社会の推進体制を整備するというとても大きなもので、博物館が在住外国人の方にどのようなことができるのかを明らかにする調査、私達のある博物館の地域と関係組織との連携、そしてそれらの活動が博物館業界の方々にとって、取り組んでみたいと思えるようなモデルになることです。5ヶ年で6つの事業に取り組むことを目標に進めています。

今年度の取り組みを紹介します。

### ●博物館における多文化共生取り組みの実態調査

今年度は、国内調査として、YSCグローバル・スクールと東京都美術館の2ヶ所に行きました。実は海外の調査を予定しておりましたがコロナ禍の影響で残念ながら渡航すらできず中止となりました。次年度実現できることを願っています。



### ●多文化共生および多言語サービス環境の向上

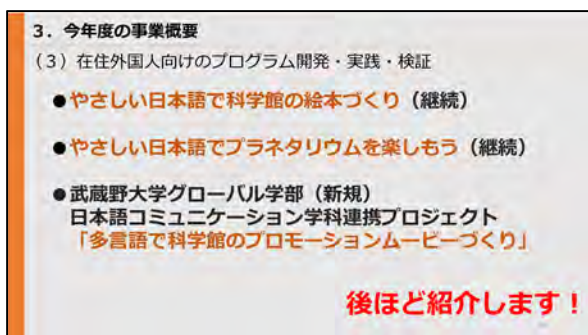
やさしい日本語スタッフ研修と多言語ワークシートの開発を行っています。やさしい日本語のスタッフ研修は昨年度から実施しており、今年はより実践的な研修を行いました。昨年は、書き言葉のやさしい日本語研修、今年度は話し言葉とコミュニケ

ーションを取ることを目的に、在住外国人8名の協力を得て現場でのグループワークを行いました。このような活動は引き続き実施していきたいと考えております。あわせて2か国語ガイドブックの作成を行いました。



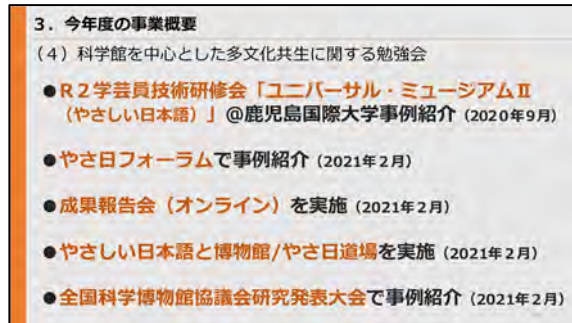
### ●住外国人向けのプログラム開発・実践・検証

①やさしい日本語で科学館の絵本をつくろう、②やさしい日本語でプラネタリウムを楽しもう、③武蔵野大学連携プロジェクトの三つのプロジェクトを行いました。



### ●科学館を中心とした多文化共生に関する勉強会

成果報告会以外にもいろいろな場で発表する機会をいただきました。このような形で来年度以降も私たちの活動をいろいろな方に届けていきたい、その輪が活動の実践に繋がるような勉強会も引き続き行っていきたいと考えております。



では、駆け足になりましたが、当プロジェクトの紹介をこちらで終わりにさせていただきたいと思いません。

## 2-3.国内調査報告

国立民族学博物館外来研究員  
チョウ・チュンニ

ご紹介させていただいた国立民族学博物館外来研究員のチョウ チュンニと申します。

たまろく多文化共生推進プロジェクトにおいて、実行委員また国内外の取り組みの調査員として、プロジェクトに携わっております。今日は、2020年の国内調査について、報告させていただきます。



### (1)博物館と多文化共生について

世界中の博物館の動きから見ても、博物館はより良い社会を創り出す可能性と博物館の役割を考え、組織改革を行っています。

包摂的かつ協働的な博物館活動を通じて、博物館は多様な考え方や価値観を持つ人々が安心して会話できる、いわゆる「安全の場(safe space)」、また公共参画の場に転換しています。

様々な社会的課題に積極的に関わっていくことが、変革する社会における博物館の役割を果たす一つの方法と考えられています。

そして、グローバル化した現代社会が直面している様々な社会課題の中、多文化共生は、博物館にとって最も重要な課題の一つであると指摘されています。

### (2)国内調査について

では、2020年の調査内容について説明します。多文化共生への関わり方は、多様な立場と多様な対象があり、無限の可能性のある方法が存在しています。



2020年の国内調査では、海外にルーツを持つ子どもと若者のための支援事業に着目しました。そこで、事例調査の対象として取り上げたのは、YSC グローバル・スクールと東京都美術館です。以下、この2か所の調査内容と結果を紹介します。

#### ●YSC グローバル・スクール

本日は、調査を受け入れていただいたピッチフォード理絵さんも登壇されていますので、事業の詳細



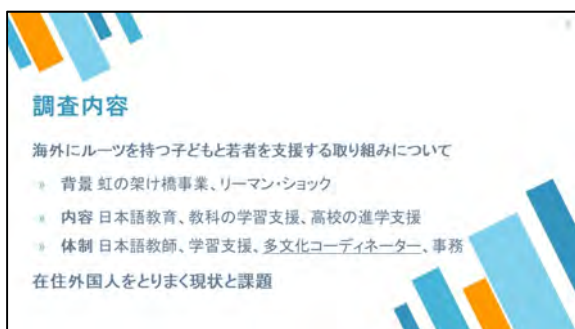
細は割愛させていただき、調査の結果に重点を置いて説明したいと思います。



YSC グローバル・スクールは、NPO 法人青少年自立援助センターが運営する、海外にルーツを持つ子どもと若者のための専門的教育支援事業です。2010 年から東京都福生市を拠点として、海外ルーツを持つ子ども・若者たちを、年間 100 名以上支援しています。

YSC グローバル・スクールを取り上げた理由は、文化的民族的な理由で物理的、精神的な脅威を受けることがなく安全であり、ありのままの姿で受け入れる社会を目指すビジョンに共感したことだけではありません。

多摩六都科学館と同じ多摩地域に所在しており、また ICT を活用したオンライン遠隔地日本語教育事業を運営し、全国各地の子どもたちに対する専門家による支援活動は、博物館が時間、場の制限をなくし、リモート技術によりサービスを届ける活動目標の参考になります。



YSC グローバル・スクールの設立は、2010 年に文部科学省の「虹の架け橋事業」を受託したことが始まりです。この事業は、リーマン・ショックによる経済不況の影響で、不就学・自宅待機となっている日系ブラジル人等の子どもの就学を支援することを目的に行われました。

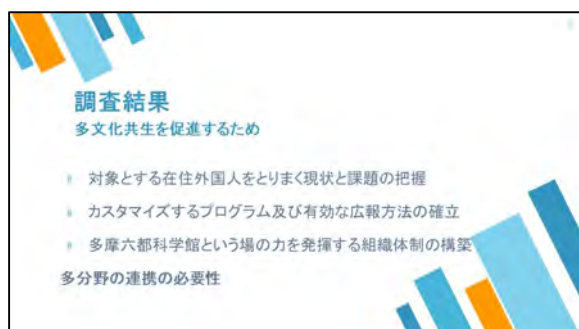
2015 年には国としての事業は終了しましたが、同スクールでは現在も継続して活動を行っており、当日は、日本語教育、教科の学習支援や高校の進学支援の内容や支援できるように整備した体制を説明していただきました。第一線で支援を行う立場からの経験を教えていただき、在住外国人をとりまく現状と課題が把握できました。

調査を通じて、博物館が多文化共生を促進するため、下記のことが必要であることがわかりました。

まず、対象とする在住外国人をとりまく現状と課題を把握する必要性です。これまでの考え方は、多文化共生を行おうとする国の文化価値観を優先することや、その国の制度に基づき外国人を保護し支援するという二項対立的な概念に偏りがちですが、今や在住外国人の目線で、ニーズを把握すべきであると考えます。そして、そのニーズに合わせてプログラム及び広報方法を確立することが必要であり、博物館の場の力を発揮できる多文化共生の組織構築も必要です。

ここで重要になってくるのは、組織の一人一人の多文化共生に対する意識改革です。ここで、2018 年に公開された AAM(アメリカ博物館協会)のミュージアムにおける多様性、公平性、近接性と包摂性に関するレポートの言葉を借りると、「組織全体、

その一人一人は、まず自分の無意識の偏見に向き合うことが不可欠である」と指摘しています。



以上のことを実現し、多文化共生の目標を達成するためには、博物館を多文化共生の拠点とすることにより、「つなぐ」場として、多分野の連携を行う必要があると思います。

## ●東京都美術館

東京都美術館は、日本初の公立美術館です。2012年のリニューアルを機に組織改革を行い、「アートへの入口」となることを目指し、大学と連携して行うアート・コミュニケーターの養成やワークショップを実施し、またアートを介して人々の間に新たなつながりをつくり、社会的課題も視野に入れ取り組む様々な「アート・コミュニケーション事業」を行っています。日本国内での先進事例と言えます。同館で調査を行った事業は、ダイバーシティ・プログラムです。



同プログラムは、同館が実施しているアート・コミュニケーション事業の中の Museum Start「あいうえの」プロジェクトのうちの一つです。Museum Start「あいうえの」は、2013年から開始された、上野公園にある9つのミュージアムが設置者と館種を超えた連携事業であり、日本の博物館の発展に新たなひとページを開いた重要なプロジェクトです。

東京都美術館のダイバーシティ・プログラムを取り上げた理由は、まさにその多文化共生について、博物館を中心とする多様な組織との連携に着目したためです。

上野公園の所在地である台東区では、人口の約7%が外国人(東京都全体の割合は約4%)で、国籍は約90カ国におよびます。

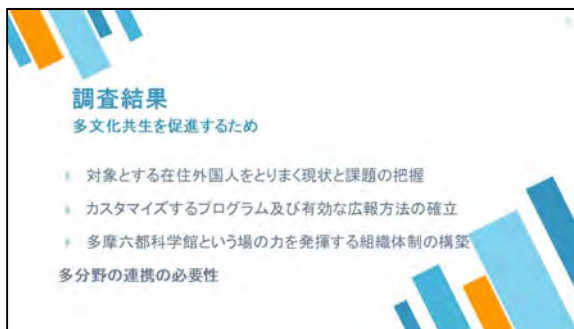
当日は、こうしたスーパー都市を対象として、東京都美術館が東京藝術大学とともに、様々な組織と連携して、設計、広報、運営を行った実施体制とその具体的な事業内容についてお聞きしました。



例えば、2019年度には「美術館でポーズ！」を実施しました。海外にルーツを持つ子どもと日本人の子どもが一緒にグループになって活動する鑑賞プログラムです。プログラムの様子は、ホームページで公開していますので、また見ていただければ、わかると思います。

博物館を実践の場として、多様な組織との連携の実践経験を共有することによって、他の地域におけるプログラム開発及び運営に際しても大変参考となるかと思えます。

東京都美術館での調査を通じて、博物館が多文化共生を促進するため、下記のことが必要であることがわかりました。



まず、多分野の連携を確立することです。プログラム内容によって、言語や文化、また様々な特殊事情を事前把握する必要があり、多文化コーディネーターのノウハウが博物館側に必要であることを示しています。

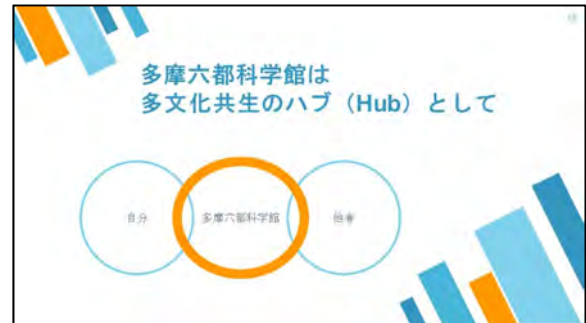
そして、事業の可視化です。これによって、多文化共生の必要と実践意義に共感を促すことが可能となり、多文化共生を促進することにとって重要なプロセスだと思えます。

### (3)まとめ

最後になりますが、多文化共生は、一人一人、また組織と組織、たくさんの自分と他者のつながりと言えます。

多摩六都科学館は、この先、調査で得たノウハウ、そしてこれまでの事業の成果を生かし、多文化共

生のハブ(Hub)として、自分と他者のハブとして、学際的な連携を通じて、多様な対象者に働きかけることが重要だと思います。



私は、この多文化共生を実践するプロジェクトに携わらせていただき、多摩六都科学館は、人々の生きる力が持つ最大限の効果を発揮することによって、グローバル社会における多文化共生の可能性を広げられるポテンシャルを有しているのではないかと思います。

ご清聴ありがとうございました。

## 2-4. やさしい日本語プログラム

多摩六都科学館研究交流グループリーダー  
高尾戸美

### ●やさしい日本語で科学館の絵本をつくろう

こちらのプログラムは館内の見学体験について、デジタルツールを活用して絵本を作成して発表会まで行うものです。さらに、デジタルデータを小さな紙の絵本にして作りました。

このプログラムは今年で3年目になるのですが、コロナの影響で従来のプログラムを変更して行いました。これまでは、みんなで見学に行けてその体験を製作する、さらにコミュニケーションをとりながら作るというスタイルでした。時間も十分に取れ、紙の絵本も自分で作るということができましたが、残念ながら全体の時間を短縮すること、個人見学、親子でする、とこれまでと違った形式で行うことになりました。もちろん解説についてはやさしい日本語を使うという点は変わりません。

今年度は、2020年10月18日に行いました。外国にルーツを持つ子どもを対象に行いました。一般の方、また圏域の5市内の日本語学校の先生など8名が参加してくださいました。実は、参加者の中には日本人の親子の方、また日本人の子どもが参加ということがありました。このことについては、広報内容が正しく伝わっていなかったと考えています。また、午前にも少し話題にも出たのですが、外国ルーツの方を対象に行うプログラムということで、日本人の方が英語でプログラムが学べるので

はないかと誤解して申し込むということがありました。こちらが科学館の絵本をつくろうのチラシになっております。



表紙のほうで工夫した点を紹介したいと思います。右上に4コマのプログラムで出来ること紹介があります。こちら過去のものにはありませんでした。参加者の人が直感的に目で見ても何が出来るかわかるようにしたいということで追加された項目になっています。裏面は、科学館に来た時に小さなガイドマップになるものをイメージして作りました。やさしい日本語版のパンフレットは当館にはありません。5つの展示室があるよということ、またその5つの展示室ではいろいろな体験ができるということを伝えるためのものです。

ではここでプログラムの様子を動画で見てくださいと思います。

<「やさしい日本語で科学館の絵本をつくろう」の動画を紹介>

以上がプログラムの様子でした。このような形で、館内の展示を見た後、その体験を iPad の「ピッケのつくるえほん®」アプリを用いて絵本にしました。最後に発表会を行い、冊子版の絵本は作らずにお土産として持ち帰ってもらいました。

### ●やさしい日本でプラネタリウムをたのしもう

このプログラムは、2019 年度と 2020 年度を昨年 2 回行っていきます。外国にルーツを持つ方を対象にやさしい日本語でプラネタリウムを解説し鑑賞するプログラムです。昨年度は春節の時期に行ったということもあり、参加はわずか 2 組、5 名でした。今年は時期を変更して 12 月に行いましたところ、圏域 5 市や都内の日本語教室の生徒さんや先生などを中心に一般の方とあわせて 58 名の方が参加されました。アンケートを取らせてもらったところ、参加者のルーツはこちらにある通りいろいろな国から来られていることがわかりました。また、プラネタリウムそのものが初めてという方もいました。



科学館の絵本をつくろうと同様に、やさしい日本語でプラネタリウムを楽しもうもチラシを作っております。圏域の関係者の方々、国際協会などに周知をしました。先ほどと同様に、ここに来た時に何

が出来たのかを伝えるための表現などを盛り込んでいます。

さらにプラネタリウムで星を見てもらった後に、私たちは帰り道に出来たら夜空を見上げてもらえるといいなと考えまして、やさしい日本語で星空案内というものを裏面に付けました。こちらを見て、プラネタリウムの内容をもう一度思い出してもらえたら考えました。

では、その様子について映像をご覧いただきたいと思います。

<「やさしい日本でプラネタリウムをたのしもう」の動画を紹介>

プラネタリウムの様子をご覧いただきました。アンケートの中には、本当に宇宙の広大さに感激をし、人間ってなんてちっぽけなんだろうという感想を持ってくれた人もいました。また、引き続きプラネタリウム以外もいろいろ開発して今後も行っていきたいと考えています。

## 2-5.武蔵野大学

武蔵野大学グローバル学部日本語コミュニケーション学科教授  
藤浦五月

みなさん、こんにちは。武蔵野大学の藤浦です。  
よろしくお願いします。

それでは今から多摩六都科学館、親しみを込めてたまろくと呼んでおりますが、たまろくと武蔵野大学のプロジェクトについて報告させていただきます。



### (1)多摩六都科学館から武蔵野大学 JC 生へのミッション

先ほどご説明いただいたので簡単に、多摩六都科学館から武蔵野大学 JC 生(JC=日本語コミュニケーション学科)へのミッションとして、多摩六都科学館の魅力を外国にルーツを持つ人々に発信し、より多くの人に多摩六都科学館に来てもらう、というプロジェクトです。そのために行ってみたくて思ってもらえるような動画を製作しようということで、学生が頑張って動画を製作いたしました。

### (2)武蔵野大学グローバル学部日本語コミュニケーション学科について

内容に入る前に、武蔵野大学グローバル学部日本語コミュニケーション学科について少し説明をしたいと思います。

まず、学びの環境です。一学年は約 80 名です。本プロジェクトの参加者は1年生 88 名でした。日本人と留学生が半分半分の多文化共修という非常に珍しい学科です。今回プロジェクトに参加した留学生の出身地は、中国、ベトナム、韓国、アメリカでした。ちょっと未来の日本の多文化環境を先取りしているような学びの環境です(※出身地の比率がという意味ではなく、外国にルーツのある人や日本以外の出身の人の割合が増えるという意味で)。

何が学べる学科なのか。日本語教育学で将来日本語教育に関係のある仕事がしたい人、観光学も学べるので観光にかかわる仕事、あとは日本語コミュニケーション学科という名前なので、コミュニケーションに関すること。そういうものを活かした仕事につきたいなという人が希望して学んでくれています。学科内が多文化環境なので、本プロジェクトに大いにかかわりがあるなと思って我々も楽しみにしておりました。

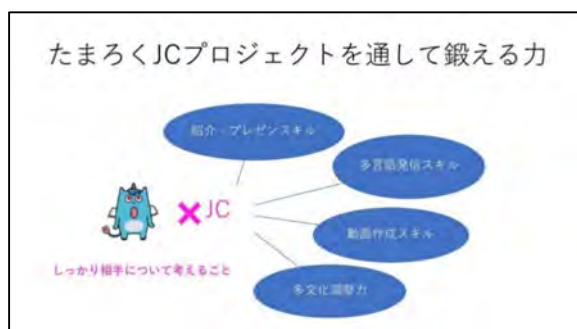
### (3)担当教員

このプロジェクトには、教員が3名関わっています。それぞれ専門があり、例えば岩崎先生ですと観光学が専門で、今回のプロジェクトの関わりとしては、例えば科学館に誰かを呼ぶとなったときに、目的地だけではなくて最寄りの駅や道のりといった、街全体を考えた課題検討がよいのではないかと、クライアントワークのポイントとしてはどんなことが考えられるかなどアドバイスをいただいています。あとICTにお詳しい藤本先生も参加されて、今回のコロナ禍では非常にご活躍いただきました。それぞれの教員がそれぞれの強みを活かしてこのプロジェクトにあたりました。

### (4)たまるく JC プロジェクトを通して鍛える力

たまるく JC プロジェクトを通して、鍛える力として、学科メンバーで多文化チームを組んで動画を製作するため、図にあるような能力が求められます。

もちろん科学館のミッションについても深い理解が必要ですし、しっかり相手について考えることというのは共通して求められる能力であると思います。



### (5)活動概要

それでは、活動概要について簡単に紹介いたします。

誰が:日本語コミュニケーション学科の学生が、88名5か国からです。

何のために:主に外国にルーツを持つ人々に質の高い教育、このプロジェクトでは多摩六都科学館で学べることに該当しますが、質の高い教育を届けるためです。

何をしたのか:多摩六都科学館、そして映像技術講師の方々とパートナーシップを組んで、協働して多摩六都科学館の紹介動画を製作、発信しました。

その結果、何ができたか:公式資料をもとに、日本語版18本、外国語版18本の動画、合計36本の動画を製作しました。外国語版の内訳はこのようなになっています。優秀作品は、多摩六都科学館のウェブページ(<https://www.tamarokuto.or.jp/blog/rokuto-report/2020/08/22/tambunka-2/>)で紹介していただいておりますので、ぜひぜひみなさんご覧ください。

実は、本来であればそれぞれ科学館に行って、素材も自分たちで撮ってそして心が動かされて感動したところを重点的に発信するという予定でしたが、残念ながら新型コロナウイルスの影響でそれが叶いませんでした。ですので、コロナ禍で動画作成・発信まで全てオンラインで行いました。そして、10月20日は、最後に代表学生14名が多摩六都科学館に直接足を運んで活動の総括を行いました。

## (6)スケジュール

スケジュール	
1回目 (5/31)	プロジェクトの目的 多摩六都科学館の現状と要望 (高尾さん) クライアントワークや映像制作のポイント (原部さん)
2回目 (6/11)	動画作成ワークショップ (自己紹介動画) → プロジェクトチームで共有
3回目 (6/18)	科学館を知ろう! (zoom中継) → 科学館動画作成に挑戦 (個人ワーク)
4回目 (6/25)	グループで動画作成1 (グループワーク)
5回目 (7/2)	グループで動画作成2 (グループワーク) → クライアントチェック
6回目 (7/9)	クライアントチェックを受けてブラッシュアップ
7回目 (7/16)	成果発表
閉館企画	多摩六都科学館に行こう!

スケジュールはこのようになっております。

全 7 回というなかなか駆け足なスケジュールでしたが、特に特徴的なものとして、動画撮影ワークショップがあります。ここでは得意な学生が動画を作るのではなく、全ての学生が動画を作るスキルを手に入れることも本プロジェクトでは 1 つ目標としていましたので、全員が動画を作りました。

例えば 2 回目では自己紹介動画を作りました。自己紹介動画を作って Padlet というところにアップしてお互いに関覧・コメントができるようにしました。今回の 1 年生は入学後、1 回もキャンパスに足を運ぶことができず、クラスメイトの誰にも会うことができなかつたため、こうした動画を作る機会も自己紹介できる機会と結び付けて、いろいろな人がお互いのことを知る場にしました。

あとは、5 回目のクライアントチェックというのを御覧いただきたいと思います。作って終わりではなく、たまろくの皆さんに協力していただいて、一旦作った動画というのが、たまろくの皆さんから見てどうなのかをチェックをしていただきました。その上でまた動画を直したりブラッシュアップをして成果発表に臨みました。

それではお話するより動画を見ていただいた方が雰囲気がわかると思いますので、動画の記録を見ていただきたいと思います。

<プログラムの様子を動画で紹介>

## (7)活動のよかった点

まず冒頭で高尾さんがおっしゃっていたように、科学館としてのミッションというのをプロジェクト前にしっかりと説明していただいたのがとても良かったと思っています。

近年企業などいろいろなところと大学生が協働して何かをするという機会は増えていますが、ビジネス的な視点では測れないこと、持続可能性も視野に入れて考えていくことなど、科学館特有の使命について社会の一員として、学科の学生が考えるきっかけをいただいたと思います。

そしてもう一つは、先ほど述べたようにクライアントワークです。活動して何かを作るということではできても、それが独りよがりではないのか。実際に科学館の皆さんから見て、あるいはその外国にルーツがある方から見て、その作品がどのように見えるのかということや学んだ上でまた作り直すという作業をいただけたのは、今後学生が何かをするときにも、相手のことを考えて作るという視点をもらったのではないかと考えています。

そして 1 人 1 人が動画を作ったということで発信力の育成になったというふうにも感じています。



そして学生賞、クライアント賞というところでは、意見がわかれ、そしてまた科学館の皆さんに選んでいただく際もその中でいろいろな意見が出たということで、正解は一つではなくいろいろな良さがあってまた今後の広がりや新たな可能性に気がつきました。

### (8)3 ない環境での取り組み

今回は「3 ない環境」でした。コロナで、クラスメイトの顔、そして多摩六都という対象施設についてもよく知らない。そして Web ツールや動画作成方法についてもよく知らない。そして対面授業、施設訪問はできないということで、3 ない環境下での取り組みになってしまいましたが、その中でも学生は教員に頼ることもなく、調査実行し、コミュニケーション力を活かしながら、なんとか遠隔で動画を作ってそれぞれ音声まで自分たちで担当して吹き込むまで全て行いました。

**3 ない環境下での取り組み**

- ・クラスメイトの顔・対象施設      —よく知らない
- ・動画作成方法やウェブツールの扱い—よく知らない
- ・対面授業・施設訪問               —できない

**学生の底力**

- 調査力・実行力
- コミュニケーション力

授業後のアンケートで「最も楽しかったこと」は、「多文化チームによる話し合いや作業」が一位！

**プロジェクトメンバーのパートナーシップ**

- 多摩六都科学館（高尾さん）
- 映像講師（服部さん）
- 武蔵野大学教員メンバー（岩崎・藤本・藤浦）

授業後のアンケートでは、「最も楽しかったことは？」という質問に、「多文化チームによる話し合いや作業」が一位になっていて、このような環境でも楽しむという、学生のたくましさを教員も見ることができました。

そして、プロジェクトメンバーのパートナーシップ、ちょっと手前みそになるんですけども、多摩六都科学館の皆さん、高尾さんと映像講師の服部さん、そして我々教員メンバー、それぞれがどのような専門を生かしてどのようなことをするのかということに関してお互いがよくコミュニケーションをとって進められたのではないかと考えています。

### (9)プロジェクトを通して

今回、学生が様々な動画を制作してくれたことを通して、知への入り口・ルートは多ければ多いほどいいというのを改めて感じました。

やさしい日本語でも母語でも、そして今回は映像になりましたけれども、文字、映像そしてそれを紹介する方法・媒体ももちろんですし、あとは、誰から紹介するのかということも多ければ多いほどいいのかなと感じました。専門家からでもいいし、同級生からでもいい。今回は、大学生ということできっとたまるくとのお客さんからすると体験を共有してくれる少しお兄さんお姉さんからになったのではないかと思います。

知への入り口・ルートは、  
**多ければ多いほど、良い**

やさしい日本語でも

母語でも

文字・映像、媒体もいろいろ

同級生からでも

専門家からでも

体験を共有してくれる  
お兄さん・お姉さんからでも

## (10) 今後に向けて

オンラインツールをいろいろ組み合わせましたのでこうしたツールは対面が可能になっても活用するとより活動が深まるのではないかと感じます。

一方で、やっぱり現場、体験の大切さも感じました。代替できないものがたくさんあったと思います。このような機会が今後もあるようであれば、分散しながらでも現場は見たい、見せていただきたいと思っています。

そして、オンライン中継ですけれども、ここも何を目的にどんなものを見せたいのかというのを、少しずつまたテーマを立てて行うことでより充実するのではないかなと感じます。

学科の学びとしては、今回の動画にもそれぞれ個性がありましたし、あとは学生のアンケートからでもコミュニケーションで違うところに気が付いたという声もありましたので、そうしたことについて理由を考えさせていくとこれから専門的なところにも目が向いていくのかなと思います。

こうした活動が単独での経験にならないように、2 年次以降そして社会に出てからも、「これは社会の一員として考えていくべきことなんだよ」というのを学科でも今回プロジェクトに参加した学生たちに関連性に気づく仕組みを整えていきたいと考えています。

これで報告を終わりたいと思います。ありがとうございました。

## 2-6.海外にルーツを持つ子どもたちの現状

NPO 法人青少年自立援助センター  
ピッチフォード 理絵

こんにちは。YSC グローバル・スクールのコーディネーターのピッチフォードと申します。



今日は短い時間ですが、海外にルーツを持つ子供たちの現状と課題、そしてこの科学館、学びというものとの関連性等々についてお話をさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

### (1)海外にルーツをもつ子どもとは

まず、本日海外にルーツのある子供という言葉ですが、外国人の子供ではないのかというお話が時々出ます。では、外国人と海外、外国にルーツがある、繋がりがあるというのがどういうことなのかということをもまず考えていただきたいと思います。

ここに私たちのスクールの過去に在籍した子供、今もいる子供達を持ってきました。外国人と言われたときに、この子たちは外国人なのでしょう。か。どう思われますか。

実は、この中で外国人と言われる、つまり日本国籍のないお子さんはこの 2 人だけです。下のお子

さんのパスポートはブラジルのもので、日本語しかできません。日本で生まれてずっと日本にいます。他のお子さんたちは、日本国籍はありますがずっと日本から離れて生活していました。日本語が全くできないお子さんもいます。そして、日本名がついているお子さん、日本名のないお子さん、名前や見た目や言葉が一致しない、様々なお子さん、若者がいま日本の中にはたくさんいます。ですので、この海外にルーツを持つ様々な言われ方をします。

海外に繋がりがあ、海外にルーツを持つ、多文化多言語環境で育つ、様々な言い方がありますが、このようないろいろな異なるパターンがあるということになります。ですので、私達がサポートする、関わる子供や若者イコール外国人ではないということ。これは皆さんがまず一つ頭に置いていただきたいと思うことです。

### (2)YSC グローバル・スクールについて

先ほどチョウさんからもお話にもありましたが、私達は 2010 年度から活動を始めました。今東京都福生市と足立区の竹ノ塚の 2 ヶ所のスクールで活動をしています。私たちはボランティアの教室ではなく常設の教室で、朝の 9 時から夜の 7 時までしっかりと月曜から金曜まで、様々なレベルとニーズに合わせたクラスを実施しています。一言で言うと、

日本語学校とフリースクールと学童クラブと塾が一  
緒になったような現場といえば、なんとなくイメージ  
は持っていただけたと思います。



様子を見ていただきますと、まず私たちの教室は  
マンツーマンの指導ではありません。子供たちは、  
これから日本で学校に行って学校の中で集団で学  
ぶことを前提としているので、日本語のクラスも教  
科学習のクラスも基本的に集団授業をしています。  
それぞれオンラインで全国のお子さんにつないで  
いますので、ここのところに写っている子供たちと  
いうのは様々なところから遠隔で参加をしていま  
す。

理科の授業をしたり数学の授業をしたり、日本語  
だけではなく様々な授業を行っています。係活動  
で枝豆とトマトを育てるなど一生懸命こういうこと  
をやったりもしています。そして日本の学校に繋が  
ることを考えて掃除当番があるので、トイレ掃除も  
交代でやっています。お勉強だけではなく調理実  
習をしたり文化祭をしたり遠足に行ったり運動会  
をしたりキャンプに行ったりといろいろなことをてん  
てこ舞いでやっておりますが、昨年度はやはりコロ  
ナのために何一つ対外的な活動を行うこともでき  
ませんでした。実は多摩六都科学館のプラネタリウ  
ムに参加したのが子供たちにとってほぼ唯一の今

年度の楽しい思い出になっているのかもしれませ  
ん。



科学館との繋がりで言うと、理科の授業を行っ  
ているところを見ていただきたいと思います。

日本語の授業は基本的に全て日本語で行いま  
すが、理科の授業に関しては、このようにもともと自  
分の母語で学習してきた経験があるクラスには母  
語を併用して指導します。ただ、漢字と読みは正し  
くなければいけないので、ここがやさしい日本語と  
理科の授業というもののせめぎ合いのところでは  
ありますが、一生懸命工夫をしながらこの指導員  
が行っているところです。この指導員は理科の専  
門のバックグラウンドがあります。理系ですが、日  
本語教師の有資格者でもあります。ただ、外国語  
は一切できませんので、これは彼女が授業準備を  
きっちり全て調べた上で授業を行っているという  
ことになります。

### (3) 海外にルーツをもつ子供を取り巻く課題

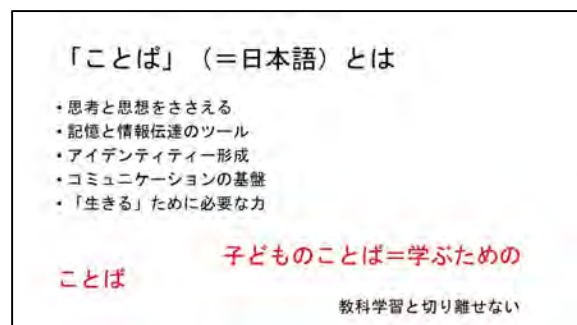
大きく分けて三つあります。

それは子供と家庭が抱える根本的な問題、それか  
ら受け入れ側の体制の問題、そして日本語指導・  
教科指導の課題。この三つの課題があります。

子供と家庭の抱える課題というのは、成長歴、来日時期や、教育のバックグラウンド、1人親家庭、ステップファミリー、異文化適応の問題など様々なことがあります。

体制にしては学校内の体制や地域の体制がどのくらいできているかということにも関わります。

そして日本語指導、教科指導に関しては、日本語ゼロで来日した子供にどうやって日本語を教えればいいのか、そしてお喋りが上手な子供にどうやって教科を教えればいいのか。どうして喋りが上手なのに勉強はさっぱりなのか、誰がどこで支援するのが一番いいのかというような課題がそれぞれありますが、今日は言葉の問題と学びの問題について考えたいと思います。



言葉というのはよく言われることですが、思考と思想を支えます。記憶と情報伝達のツールでもあります。そして、アイデンティティーを形成します。コミュニケーションの基礎であります。そして、生きるために必要な力です。ただし、子供の言葉というのは、子どもたちは学んでいかなければいけません。ですので、教科学習と切り離すことができない部分というのが大人との大きな違いでもあります。

そしてもう一つ、大人の日本語指導と子供の日本語と何が違うのかということ、大人には情報伝達のツールとしての日本語を伝えるように使えるようにしていくことが大切です。でも子供はその学んだ日本語でそこからものを考えて学んで、そして頭の中に記憶していく。そのための言葉になります。ですので、子供の成長を支える言葉、この大切さというのは、もちろん日本人のお子さんにも外国にルーツのあるお子さんにも共通のものになります。

この学びを支える言葉は、生活言語といわれるものと学習言語と言われるこの二つがあります。よく言われるのが日本語ペラペラまで 2 年、お勉強スラスラまで 5 年、中には 7 年という話もあるぐらいです。

生活言語というのは、友達と話をしたり、日常生活を送る際に使う日本語です。そのため周囲の人の交わりの中で習得していきます。

ただ、学習言語というものは、授業や教科内容を理解して論理的な学習をするために使う日本語ですので、習得には体系的な学習経験が必要になってくるとい違いがあります。子供たちというのは、世界中のいろいろなところから、いろいろなタイミングでやってきます。言葉と学びに限定してお話をすると、いつ日本に来たのかということによって大きく違いが出てくるものであります。

まず、日本生まれや、とても小さいときに来日したお子さんというのは日本語が第一言語になっていく可能性が高いです。そして、それに付随する形で母語を、つまり自分のお母さんから受け継いだ言葉というのを失ってしまうという可能性も大きくあります。

そして、小学校低学年で来日した場合というのは、ダブルリミテッドという状態に陥る可能性もあります。ダブルリミテッドというのは、日本語と自分のお母さんお父さんから引き継いだ言葉、両方ともコミュニケーションは取れるが、どちらも年齢相応に至っていないという、悪い言い方で言うと出来損ないのバイリンガルというような言い方をされたこともあります。以前はセミリンガルと言いましたが言葉が悪いというのでダブルリミテッドという言葉に変わりました。

でも言葉が変わったからといって、内容は何も変わりません。こういうお子さんの場合は、当然家庭内で何語を使っているのか、それから何歳から学校、保育園に行ったのか、そして学校内の支援があるのかないのかにもよりますが、最大のポイントは圧倒的に語彙がありません。大きいも高いも広いも厚いも幅が広いも全て「デカイ」という一言でカバーしてしまいます。これは今の日本人のお子さんも、何でもすげえとやばいで済ましてしまうのも同じラインかもしれません。とにかくこの細かい言い換えの語彙が少ないのが目立つ特徴ではありません。

そして小学校高学年で来日すると母語を保ったまま、そして日本語も早くから身につくバランスバイリンガル、日本語ももう一つの言葉も4機能をバランスよくできるという可能性も出てきます。

そして、中学生以降で来日した場合、これは当初は日本語の習得に苦労するお子さんが多いです。しかし母語での思考能力、学習能力が日本語に反映することがあるため、ここからがスムーズにいくことが多いです。

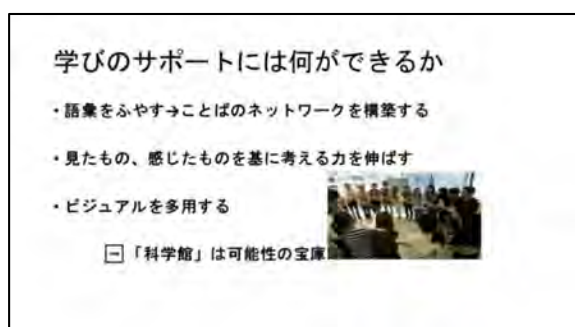
私達のスクールでは、高校進学を希望するお子さんたちがとても多いです。そのお子さんたちを例にとって、この違いを見ると非常に顕著に違いが出ます。

日中の高校進学クラスにいるお子さんは、中学校3年生や中学校の既卒者です。13、14歳以上で日本語がゼロの状態で来日しました。ということは自分の国でその年代まで学校にきちんと行って学習をしてきていますので、来日当初は日本語学習に苦労しますが、日本語の伸びに従って自分の国で学んできたものとの置き換えが可能になっていきます。そして外国人特別入試で全日制に進学、もしくは海外に繋がる生徒が多い定時制に進学し、時間をかけて日本語と学習言語を学び伸ばして、そして大学や専門学校への進学というルートに繋がるお子さんもいます。

ただ、放課後の中3クラスに在籍している子供というのは、実は日本生まれや幼少期来日が多いです。第一言語は日本語です。日本語はペラペラでその辺の日本人の中学生と全く同じです。しかし、学習言語が未発達で9歳の壁という話がありますが、これを超えられていないケースが多いです。でも保育園から小学校中学校とずっと日本で育っているため、定時制という学校は選択肢にありません。どうしても全日制の学校へ、といって、底辺校に進学しそれでもついて行けず中退や非正規、若年出産というような負のスパイラルに陥るケースもあります。そしてこういうお子さんたちは学校内の支援からこぼれてしまうケースがほとんどです。

#### (4) 学びのサポート

では、どうやってサポートしてあげればいいのかというと、やはり語彙を増やすこと、そして見たもの感じたものを元に考える力を伸ばすこと、そしてビジュアルを多用することとなります。学校の理科の授業は大嫌いだが、何か見ながら実験をするのが楽しいというお子さんは多いです。



科学館というのは、実は可能性の宝庫ではないかと考えています。私は今後、私達のスクールと科学館とで共に学べるチャンスがあるといいなと考えてもいます。

#### (5) 持てる力を発揮するために

子どもたちが持てる力を発揮するためにはどうするか、いろいろなことがあります。居場所を作ったり学力向上の支援をしたり、ただコミュニティの中の連携というのもとても大切です。これは私達がバラバラでいてもできません。やはり、様々なファクターが手を取ってワンチームで取り組みをする、それが未来を創ると私たちは考えています。



これは人人個人ではなく企業、行政、地域、学校、この中には多文化のいろいろな NPO や、学校を支える日本語指導のボランティア教室、そして科学館や児童館など、様々な人が共に戦うことで課題が社会化し、そして多文化化が目に見えてくると思っています。

#### (6) 多文化共生とは

多文化共生というのはこのような定義があります。国際交流国際友好と何が違うのかということ、国際交流は、日本人私達がホスト、外国人あなたたちがゲストです。ですから you は何しに日本に来たのというのがいつまでも続く限りは、これは本当の多文化共生ではありません。多文化共生は日本人外国人私達が一緒に仲間として生きていくことが必要です。


外国に繋がる、海外にルーツのある子供たちというのはいろいろな課題もあります。

しかし、彼らは優れた能力を持ってキラキラ光るスーパーグローバル人材の原石かもしれません。これを磨いていくことができるのは周りの私たち大

人たちは。皆と一緒に協働することで、多様性が豊かになる未来ができるのではないかと思います。

問題もまあ、あるけれど裏返せば・・・

- 高い異文化適応能力
- 高い観察力
- 高い問題解決能力
- 高い忍耐力
- すぐれたソーシャルスキル
- マルチリンガル



これからの日本社会を支える共に生きる仲間  
多様な背景・発想・言語・文化をもち架け橋となる人材  
キラキラ光るスーパーグローバル人材の原石かも

では、ここまででお話を終わらせていただきます。  
ありがとうございました。



## 2-7.全体質疑応答

---

高尾：質問がいくつか来ているようなので、蓮田さんの方からお願いします。

蓮田：各先生にお一つずつ伺っていきたいと思います。

まず藤浦先生宛です。『武蔵野大学の試みは興味深いものでした。後ほど Web で拝見したいと思います。学生が選んだ優秀賞と教員らが選んだものが異なることは予想されたと思うのですが、それぞれ大事にした点、例えば評価の視点のすりあわせはしたのでしょうか。学生が大事に思った点と教員が大切にしてほしい点との違いは重要だと思いました』というものです。

藤浦：はい。ありがとうございます。

最後の優秀賞のところですが、教員は実は投票には関わっていません。学生が選んだ賞とあとは多摩六都科学館の皆さんに選んでいただいた賞の二つでした。

まず学生が選んだ賞の特徴としては、主観ですが、内容としては科学館の全体的な説明をした動画でした。映像の特徴としては、実はそのチームの中に動画作成がとても得意な学生がいて動画自体の演出が凝っているものだったなという印象を受けています。

そして多摩六都科学館の皆さんに選んでいただいたものは、中でも意見が割れたというふうに話し合いに立ち会っていただいた先生に伺いました。そこでなぜ意見が割れたのかというと、例えば、子どもの目線に立ってペガロクというキャラクターの声も使いながら工夫していたチームと、あともう一つは「体験型」という多摩六都科学館の強み、特徴に焦点を当てて制作したチームと、割れたと伺っておりますけど合っていますでしょうか。

高尾：はい、そうですね。

藤浦：まず、学生が現場に行けなかったというのが一つあるかなと思います。

多摩六都科学館の皆さんからは、やはり科学館の魅力をよく知っている皆さんからの票というのと、あと全体的、一般的な説明ではあったが映像自体にすごく手をかけて凝っているチームというところで分かれた印象です。ただ、どちらの視点も大切なのかなと思いました。

どのような人がどのような動画を見て行きたいと思うかはわかりません。実際に多摩六都科学館に行った学生の中には、自分たちで体験しながら YouTuber のようにカメラを回して中国語で撮っていた学生もいて、例えばそれが全部中国語であっても自分たちが体験するものをアップしたら、そ

れを見て足を運んでくれる、「ムーンウォーカーに  
乗りたい！」と思うような人もいないかな  
あというふうに感じました。

評価点のすり合わせは結論から言うとしておりま  
せん。科学館のことをよく知っていらっしゃる皆さ  
んが選んだものと、動画をぱっと見たときにかっこ  
いいと思うような、キャッチーなところがある、そう  
いうところで分かれたというふうに思っております。  
お答えになっていますでしょうか。以上です。

蓮田：ありがとうございます。では次、チョウさんお  
願います。『東京都美術館のプログラムのことを  
興味深くお話を聞きました。アートと比較すると科学  
の方はもう少し言葉というものが壁になってしまう  
というような印象があるんですけども、科学館で  
プログラムを行っていく上で、何かアドバイスがあ  
ったらお願いします。』

チョウ：この質問はプログラムにおける現場実践及  
び運営に関する質問だと思うんですけども、今  
回私が携わったのは一緒にその先進の事例を調  
査して、そこから得たノウハウで感じたことは、コミ  
ュニケーションがすごく大事だということです。プロ  
グラムを開催する前に、なるべくカスタマイズする  
コミュニケーションを取ることです。なるべく事前に  
参加者の情報を収集し、それに対応できるように  
心がけることが必要です。実際にプログラムを行う  
ときはもちろんコミュニケーションに頼りますので、  
多摩六都科学館が今実践している「やさしい日本  
語」をベースにしたコミュニケーションを行うことが  
とても貴重なポイントになると思います。

蓮田：ありがとうございます。では次高尾さん。『2  
年目のプログラムの報告では、たくさんの方参加さ  
れたようですが、昨年度、前年度と比較してより改  
善した点というのは具体的にあれば教えてください。』

高尾：ありがとうございます。これからの課題と繋  
がっていくのですが、前年度はどちらかというと、  
科学館の中で、できるだけ頑張ろうとしていました。  
外部の方の協力を得たいと思っていながらも、積  
極的にお願いしたらご迷惑かなとか考えてしまって、  
遠慮がちにお声掛けしていました。今年はもっと  
一緒に協力してもらいたく、たくさんの方に巻き込  
まれていただいた結果として、例えばあのやさしい  
日本語のプラネタリウムに50名を超える方がいら  
していただけました。これは私達では、お呼びする  
ことができなくて、地域で活動してくれている方  
のお声がけと連れてきてくれたということにつきます。

私たちは地域課題に興味があったとしても、見え  
ているようで見えていなくて、その課題の大きな概  
要は見えても、そこから先の、本当に困難を感じて  
いる人たちにリーチできてないところをすごく痛感  
しました。

今回の活動を通して、一人一人あの街には、この  
子がいて、今度のプログラム来てほしいとか、そ  
ういう子がやっと見えてきました。このプログラムを  
ロクトでやると、この人たちがまた一緒に集まってく  
れるのではないかという希望も少し見えてきたとこ  
ろですので、この場を広げていくことを続けてやり  
たいと思っています。

蓮田:ありがとうございます。では次ピッチフォードさん宛てにコメントです。『ダブルリミテッドは深刻ですね。私は母国語で授業を受けた。例えば、ピタゴラスの定理を中国語で習う。子供は日本語で習う子供にピタゴラスの定理を中国語で習った親は教えられない。』ダブルリミテッドに関すること、結構今回考えられた方も多いかと思います。こちらの方で少しピッチフォードさんコメント追加があればお願いいたします。

ピッチフォード:はい。わかりました。ダブルリミテッドもいろいろな程度があるんですけども、やはり子供というのは学校っていう一つの大きな世界があって、家の中で家族と使う言葉と学校で使う言葉というのが一致しない場合に、やはりどちらが強いかということになるんですけども、家庭内の言葉というのが特に読み書きが習得できてない場合が多いです。

お喋りはお父さんお母さんと普通に家の中で話しているけれども、ただ、文字は習得していない。文字習得しないまま保育園から日本の社会、日本の世界のなかに行って日本語は耳で覚えた。日本語に関して家で文字情報には触れないで小学校に上がるんですね。なので、小学校に上がった段階で日本語も、そして自分のお父さんお母さんの言葉も、どちらも文字というものに触れる機会がないままになります。なので小学校1年生に上がったときから、実は大きくビハインドになってしまう。子供というのはよく言われますけれども、動く馬を追いかけているんですね。周りの日本人のお子さんた

ちも成長していく。なので、日本語が伸びても伸びても、周りもどんどん動いていくので、いつまでたっても追いつかないというようなことも起きます。この外国人の保護者のかたもとても悩んでらっしゃる方も多いです。子供が学校で勉強していることは日本語で勉強しているから自分は見てもわからないし、助けてあげることもできない。子供もやはりお父さんお母さんに聞いてもわからないからお父さんにもお母さんにも聞かない。かといって自分1人で本を読んで理解ができるほどの日本語の力がやはり足りない。学年が上がるにしたがって学校の勉強も追いつかない。そしてそのうちちょっと難しいことはテレビを見てもやはりわからない。お父さんお母さんと話をしても、この頃お父さんお母さんの言葉もだんだんよくわからない。聞いてはわかるけど自分から話をするのが難しいというので、この保護者との間のコミュニケーションの言語も失ってしまうようなケースもあります。

なので、この日本で、他言語環境で育つ子供たちは一見、日本語も自分のお父さんお母さんの言葉もお喋りはペラペラです。ただ、何を話しているのか、その内容になったときに、やはり年齢相応のことが追いついていないケースというのは多くあります。これは多言語環境で育つお子さんたちが共通で抱える難しい問題です。バランスバイリンガル、2言語3言語をきちんと4機能とも運用できるというのには、やはり保護者も本人もやはりある程度の努力が必要なのですが、日本というのは日本語だけの国ですので、なかなかそのところが大きな課題にはなってくるところではあります。

蓮田：ありがとうございます。それでは先生がた皆さんに質問ということにいただいています。『このような事業で問題になるのが参加者の日本語習得レベルと思ったのですが、その点で難しいところ、課題などがありましたら、教えてください。』

では、藤浦先生からお願いします。

藤浦：本学の学生は、大学で日本語でみんなと一緒に授業を受けるので、基本的な日本語に関しては全く影響ありません。

ただ、このプロジェクトで一緒にさせていただいたのが、科学館というのがポイントですね。やはりいくらその日本語が大学入試に耐えるものができたとしても、何がいいかな、重力ぐらいはわかるか。ちょっと私からもう少し複雑な語彙がパツと出てこなくて申し訳ないのですが、ただそこをじゃあ勉強したことがあるか、聞いてすぐにわかるかというところ必ずしもそうとは限らない。翻訳者、通訳者の方々が一生勉強し続けるのと同じように。

ですので、うちの学科の学生からすると、また新たな学びがあります。留学生は、科学で使われる日本語についてはさらに自分たちの日本語の世界を広げるきっかけになりますし、日本人学生・日本語母語話者からすると、「これって何？」と言われたときの答え方ですね。別の表現でどうやって言ったらわかるのか、日本語母語話者であってもその言葉・表現を持ち合わせていないということに、こういうグループワークを通して気が付くというのもこの企画のいいところではないかなと思います。以上です。

蓮田：ありがとうございます。先ほどの質問が皆さんにということだったのですが、藤浦先生に代表してお答えしていただくということにしたいと思いません。

あと2つほど質問大丈夫でしょうか。まず1つ目です。『子供たちに向かい合うときに心がけていらっしゃる、接する側が注意しなければならないことがありましたら教えてください。』こちらピッチフォードさん宛に来ております。お願いいたします。

ピッチフォード：私がよく皆さんにお話するのは、子供にとって信頼できる大人になりましょう、ということです。子供たちが接する唯一の日本人の大人である場合もあるんですね。ですので、子供たちから見ると信頼できる大人、そしてスクール等々で信頼できる仲間がいるとき、そういうときに子供は初めて積極的に関わり、話をし始めることが多いです。

そしてもう一つは、子供たちの置かれている環境は様々ですし、多言語の環境にいたり、それから家庭の環境がなかなか複雑であったり、もうお父さんとお母さんが違う国の出身者だけど日本語しかできなくてみんなで日本語を話してたりとか。私たちから見ると、いろいろすごく大変だねと思うことが多く目につきます。ただ、その環境はその子供にとっては普通です。子供にとっては、あくまでも普通の日常を、彼らは生きています。ですので、私達はやはりそのところを特別扱いしない、1人の信頼できる大人として、信頼できる子供に対応することが心がけていることではあります。

蓮田:ありがとうございます。では最後の質問、チョウさん宛てにきています。『ロクトを自分と他の人を繋ぐハブとして使うという視点が印象に残りました。自分と他者を双方向で繋ぐためのポイントはどのようなものでしょうか。』お願いいたします。

チョウ:少なくとも一つ大事なポイントは、私は共感力だと考えています。共感ができるような理解力と想像力がとても必要です。心を開いて、自分自身の固定観念や偏見に気付き、他者の文化的な考えや立場を理解するように努力、他者と自分自身と何が違うとか、他者はどういう状況に直面しているとか、いろいろ考えて共感することがすごく大事だと思います。

蓮田:わかりました。ありがとうございました。

高尾:お時間となりましたので質疑応答は終わりとさせていただきます。ありがとうございました。

## 2-8.閉会のご挨拶

---

高柳:本日、皆さんのお話を伺って、私たち科学館の活動でも、やさしい日本語の普及と啓発に努める機会がいくつもあることに気づかされました。

例えば、多摩六都科学館のミッションステートメントでは、多様な「学びの場」をつくりあげ、地域の皆さんをつなぎ、「地域づくり」に貢献することをめざしていると述べられています。

地域づくりの活動では、生活言語で接する地域の人々との連携が不可欠です。その際、多くの人々の連携をもたらす、やさしい日本語による橋渡しはお互いの信頼関係を生み出します。

また学びの場ではやさしい日本語による学びの言葉を手に入れることがとても重要になります。そのことを意識すると、「地域づくり」と「学びの場」と言う二つのミッションを一つのミッションとして総合化することが、本日皆さんから指摘されたやさしい日本語に課された課題に対応する一つのあり方だと気づかされました。

考えてみると、人類の歴史を科学の目で見れば我々は全員が海外ルーツの人間になってしまいます。

科学は不思議な世界の見方をする人間の営みかもしれません。世界を知る科学の営みは難しいことではなく、不思議だということにもあります。

不思議な世界がここにあるということで、それを知ることで、私たちの世界をもっと豊かに深いものにして行く、私たちにとって、深く興味深いものにしていく、科学館の活動にも有益な、やさしい日本語を広げて行く良い機会を本日はいただいたと思いつながら伺っていました。

高尾:以上をもちまして、終わりにさせていただきます。長時間にわたりご参加いただきましてありがとうございました。



### 3. やさしい日本語と博物館

---

日 時

2021年2月23日(火・祝) 10:00~12:00

会 場

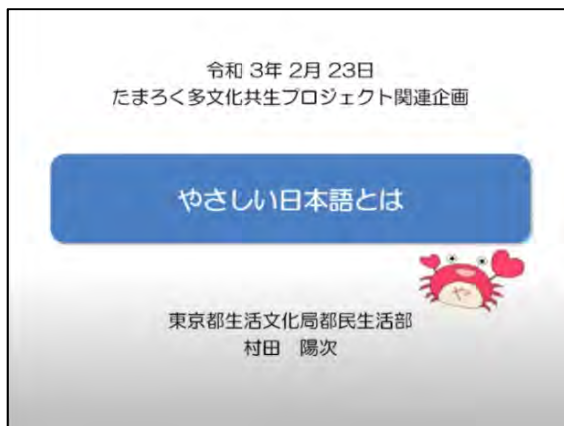
オンライン開催

## 3-1. やさしい日本語の概要と事例

東京都生活文化局都民生活部  
村田陽次

### ●やさしい日本語の概要

#### (1) やさしい日本語とは

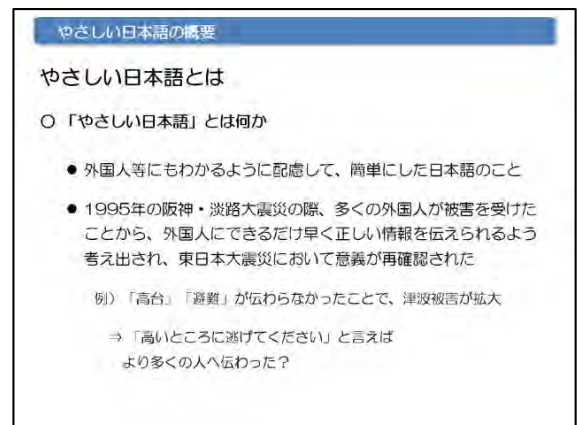


それでは最初にわたしの方から、やさしい日本語とは、ということでやさしい日本語の概要と、後の高尾さんのお話に繋げるような説明を少しさせていただきます。

それではやさしい日本語の概要ですが、まず、やさしい日本語とは、外国人等にもわかるように配慮して簡単にした日本語のことです。1995年の阪神淡路大震災の際に多くの外国人が被害を受けたことから、外国人にできるだけ早く正しい情報を伝えられるように考え出されまして、東日本大震災の時に意義が再確認されました。

よく言われるのが、3.11の時に「高台に避難しましょう」というアナウンスが「高台」「避難」などの言

葉が難しく伝わらず、被害が拡大したと言われております。「高いところに逃げてください」と言えばより多くの人に伝わったのではないかということです。そうした経緯から、やさしい日本語はまずは災害時などの緊急時における一種の防災ツールとして普及しました。災害時には外国人が情報弱者となるとともに、発信する行政側にも多言語への翻訳通訳の余裕がない場合も多いため、やさしい日本語による迅速な情報伝達が有効とされています。

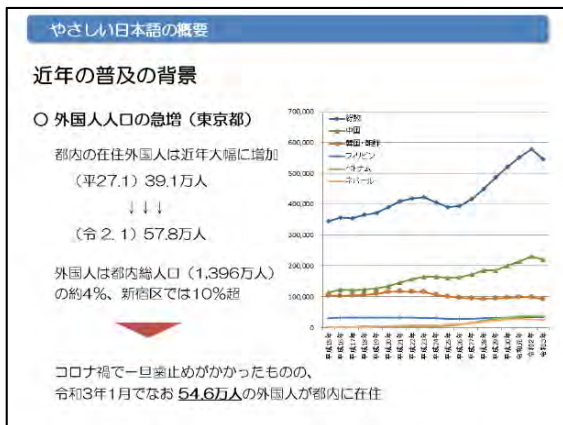


ただ、近年は外国人の増加多様化を受けまして、災害時にとどまらず行政等のコミュニケーションや広報のツールとしても普及が進んでいるところです。その背景について少しご説明します。





## (2)近年の普及の背景



外国人人口の急増ということで、都内の在住外国人の人口をみますと、平成27年の1月に39万人ぐらいの方が住んでいらしたのが、令和2年1月には58万人近くまで増えています。19万人ぐらい増えて、その時点で外国人は都内の総人口1,400万人弱の約4%を占めておりまして、新宿区とか豊島区のような非常に多い地域では割合が10%を超えるところもあります。

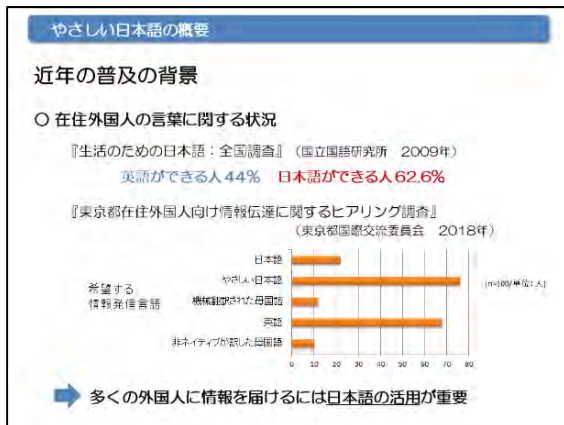
皆さんご承知の通り、新型コロナの流行が始まりまして外国人の方が帰国されたり、新しい方がなかなか入りづらい状況があります。ただ、それでも、歯止めがかかってなお令和3年1月時点で54.6万人の外国人の方が都内に在住しています。

この「外国人」と書いた時に指すのは外国籍の方々です。外国にルーツがあって帰化したりとか、海外で生まれ育った元々日本国籍の方というのはここに含まれてないので、いわゆる外国にルーツを持つ方という言い方をしますけども、外国にルーツを持つ人々の数は「外国人」の数よりも多いというふうに考えていただいて結構です。

その国籍についても、多様化が進んでおりまして、今年の1月現在で出身は184の国と地域に及んでいます。中国籍の方が一番多くて、韓国、ベトナム、フィリピン、ネパールと続きます。ちなみに、これは都内の割合ですね。東京以外の地域ではポルトガルやブラジルの方が多かったりといったこともあります。

近年は都内では、特にベトナム、ネパールといった国の方が非常に増加しています。その他でもミャンマーとかインドネシアとか東南アジア系の方が増えている。後でもちょっと話に絡んできますけども、こうしたところはまあいわゆる非英語圏ということですね。そういった方々が増えております。

それと在留資格につきまして、都内には、よく社会的に問題になる技能実習生は比較的少なく、専門技術分野と留学生の方が多いんですが、近年は永住者それから日本人の配偶者、それから様々な形での定住ということで、長期滞在の方が増えているという特徴があります。総じて在住外国人の増加、多様化、長期滞在が進んでコミュニケーションが大きな課題となっていると言えます。



そうした在住外国人の言葉に関する状況ですけれども、少し古い調査なんですけど、国立国語研究所が2009年に全国調査をしています。日本に住んでいる在住外国人の中で英語ができる人がどれくらいいるかという調査で、英語ができる人は4割台でした。それに対して日本語ができる人、いろんなレベルがあると思うんですけど、日本語ができる人は6割を超えている。その後同様の全国調査がないのでちょっと比べられないんですけども、より最近行われた地域的な調査を見ても、日本語が分かる人というのは7割から8割ぐらいはいると。それに対して英語ができるのはやはり4割ぐらいです。

ちなみに地球上の人類の中で英語がある程度分かる人がどれくらいいるのか国連が調査したことがあって、英語が少しでもわかる人が2割ぐらいで、日本に来る人はそれよりも割合が高いんですけど、それでも4割ぐらいですね。考えてみれば当たり前かもしれませんが、日本に来る人は日本語を学んだり少しでも使えるようにするモチベーションが高かったりするので、英語よりも日本語の方が打率が高いということは言えると思います。

それと2018年に東京都国際交流委員会が在住外国人向けに情報伝達に関するヒアリング調査、あなたはどのような言語で情報が発信されるといいですかと聞いたところ、自分の国のネイティブの言語っていうのはもちろん一番ですけど、それを除くとやさしい日本語が一番多かったという調査結果もあります。ということで、多くの外国人に情報を届けるには日本語の活用が重要ということが言えると思います。

### (3)やさしい日本語のポイント

やさしい日本語の概要

やさしい日本語のポイント

○ 日本語をやさしくするためには

- 文章は短く、一文で一つの情報提供に ※ 情報の整理が重要
- 主語を明確にし、二重否定やあいまいな表現などは避ける
- ふりがなをふる ※ 「全部ひらがな」はかえってわかりにくい
- 漢語、カタカナ語、略語、オノマトヘなど難しい言葉は避ける
- 敬語は使わない ※ 「私（あなた）は～です（ます）」が基本
- 写真やイラストなどを併用する
- 話す時はゆっくり、はっきり話す 書くときは分かり書きを

日本語をやさしくするためには、まず文章は短く、一文で一つの情報提供にする。これは日本語に限らないかもしれません。ダラダラ長く続いている、一つの文章の中にいくつもの情報が入っている文章では分かりづらい。なので情報の整理をする必要があります。

二つ目は主語を明確に、二重否定や曖昧な表現などは避ける。二重否定というのは「～でないことはない」。あと曖昧な表現というのは「～かもしれないけど…」とか。そういう言葉っていうのは、伝えた

いことのポイントがどこにあるのか非常にわかりづらいいですね。

三つ目は、やっぱり日本語っていうのは漢字とひらがなとカタカナ三つの種類の言葉が混じっているのが難しさの特徴でもありますので、漢字にはふりがなを振りましょう。ただし、全部ひらがなにしてしまうとかえってわかりづらいいですね。これは1回やってみるといいんですが我々は漢字と助詞などのひらがなの組み合わせで意味をつかむことに慣れているので、全部ひらがなにすると文章の切れ目、意味の切れ目っていうのがわからなくて、わかりづらいいですね。もう模様みたいに見えてしまうので、ふりがなを振るとというのが基本だと思います。

それと四つ目、漢字は使ってもいいですけど漢語と言われるような難しい熟語はなるべく使わないほうがいい。それとカタカナ語、特に和製英語は通じないことが多いです。「スマホ」ぐらいになるともう日本語の一つとして定着し始めているかもしれないですけども、そういう略語についてもちょっと難しいものが多い。あとオノマトペ、擬音語・擬態語というのは感覚的なニュアンスの話なのでこれは非常に難しい言葉なんですね。

五つ目、敬語は使わない。ですます調、いわゆる丁寧体が基本です。これはさっきの難しい言葉、何が難しいかという話と関わってくるのですが、日本語を外国ルーツの人が学ぶ時には教科書で学んでいきます。それでやさしい言葉遣いから難しい言葉使いに順に日本語を勉強していくのですけれども、そういった教科書で使われるのは、基本的に丁寧体なんですね。なので、日本語を学習途中の

人であれば丁寧体が一番通じやすい。敬語は日本人でもそうでしょうけど使いづらいということがあります。「私は～です」が基本です。

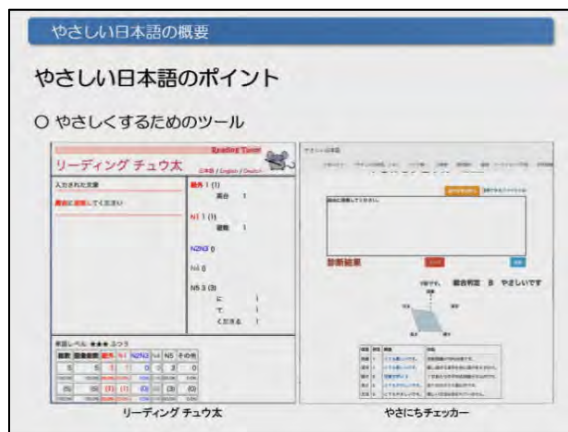
次は、写真やイラストなどを併用する。これはやっぱり言葉だけで色々通じるというのは難しいので、写真やイラストなど感覚的に分かるものを併用した方がいい。

最後は、話す時はゆっくりはっきり話す 書くときは分かち書きをします。分かち書きというのは、意味の塊ごとに半角スペースなんかを入れてあげると意味の塊を取りやすいということです。さっき全部ひらがなはわかりづらいという話と同じで、ズラズラっと句読点を持たずに続く文章ってわかりづらいいですね。それは外国ルーツの人はなおさらですので、書くときは分かち書きをしましょう。

#### (4) やさしくするためのツール

では、そうした難しい言葉ってどういう風に判断すればいいんだという話なんですけども、日本語能力試験というのがありまして、文法とか語彙のレベルはN1からN5レベルに分かれています。N5が一番易しい、N1が難しいというレベルです。N1の例 N2の例をいくつか書いてみましたが、正直自分が普段使ってる言葉はどのレベルに当てはまるのかっていうのは分からないですね。これ当然日本語の教師の方じゃないと分からないと思います。難しさをチェックするツールを使うと、その言葉遣いが難しいかどうかというのが分かります。だいたいN3からN5、できればN4以

下を目指す外国ルーツの人でもその日本語が通じることが非常に多くなるという風に言われています。



ツールの例として二つ、これはいずれも Web 上で無償で使えるツールです。一つはリーディングチュウ太、もう一つはやさしにちチェッカーというものです。画面のキャプチャーを載せましたが、左側がリーディングチュウ太です。「高台に避難してください」というさっきお話した東日本大震災の時になかなか通じなかったアナウンスの文章を入れてあります。

これで評価をすると、それぞれの単語の難しさというのをチュウ太くんが判断してくれるんですね。ここで見ると「高台」っていうのはさっきの N1 から N5 のレベルのどれにもはまらないぐらい難しい、級外と書いてあります。避難は N1、非常に難しいですね。N1 というのは高校とかそれぐらいのレベルの日本語になるかと思えます。

それと右側はやさしにちチェッカーです。こちらも文章を入れると判定してくれるのですが、個別の単語っていうよりも文章全体を総合判断するツール

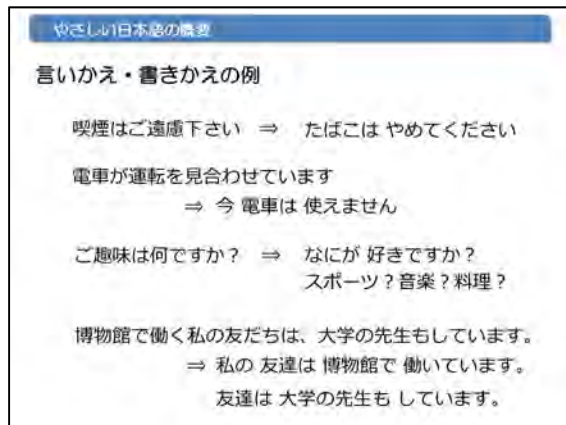
なので、文章が短いと結構易しいって言ってくれるんですね。なので「高台に避難してください」という同じ文章を入れた場合、語彙はとても難しいという評価です。やっぱり「高台」とか「避難」が難しい。ただ長さは短いですし、丁寧体なので文章全体とか文法については易しいという評価になっています。そういう評価もできると。こういうツールを使いながら、その文章が難しいかどうかチェックしつつ、やさしくしていくということになるかと思えます。

### (5) 言い換え・書きかえの例

いくつか具体的に言い換え書き換えの例をご紹介します。

まず「ご両親」、これは「お父さんとお母さん」に。「更新する」、更新っていうのが結構難しいので、「新しくする」。「土足厳禁」これは難しい言葉ですね、土足厳禁の意味をとらえて「靴をぬいでください」。「召し上がる」、こういう尊敬語は難しいんですね。なので「食べる」。この「食べる」のところに「食(た)べる」ってあるんですけども、さっき漢字にはふりがなをふりましようと言いましたが、実は Web とか SNS 、パワーポイントもそうですけど、基本的にふりがなをふれないんですね。そこでふりがなの代目でカッコ書きでひらがなをつけたりします。「キャンセル」、カタカナ言葉は難しいですね。キャンセルは「やめる」。「セール対象外」、セールは和製英語に近いです。セールって聞くと日本人は安売りって意味でとると思うんですけども、英語でセールだと売るって意味ですから。よってこれは日

本語の和製英語の意味をとらえて「安くなりません」と言ってあげると通じると思います。「喫煙はご遠慮ください」、喫煙という言葉とご遠慮くださいって言う敬語が難しいですね。なので「タバコはやめてください」。身も蓋もない言い方になっていくのがやさしい日本語かと思います。



「電車が運転を見合わせています」、これはどうでしょうか。見合わせていますは難しいですよ。見合わせるっていうのは難しい日本語だと思います。そして、見合わせているって言うのは今、電車が運転を見合わせているって意味ですよ。そこで「今 電車は使えません」とする。言葉を聞く人の立場で考えると、「使える」「使えない」ですよ、電車って。なので「使えません」。で、見合わせていますという現在のことを表しているの、だったら最初に「今」というふうに出してあげればいい。

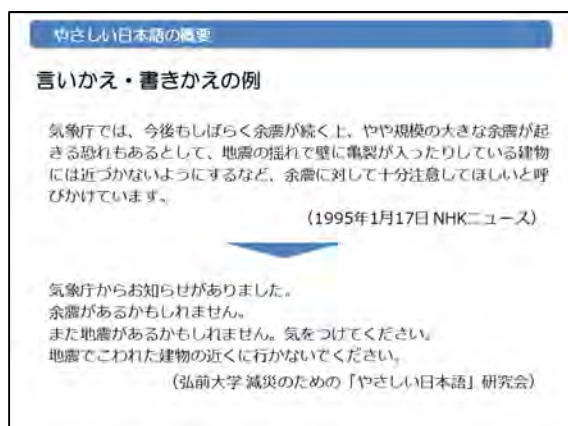
ちなみにここでさっきの分ち書きが出てきますね。今と電車の間に半角スペースが入れています。「今 電車は使えません」と意味の塊ごとに切っています。これが分ち書きです。

「ご趣味は何ですか?」、いつもこの例を出すんですけども。「何が好きですか。スポーツ、音楽、料理」。これ「何が好きですか」だけだと、趣味の話かどうかわからないんですね。食べ物の話しかもしれない、別の好みを聞いているのかもしれない。なのでスポーツ、音楽、料理というふうに言葉を足してあげると、趣味の話だなということが分かると思います。これはひとつの聞き方の例にすぎなくて、全く別の聞き方もあります。

私が前に見た映像では、外国人相談員が趣味を聞き出す際、「何が好きですか? スポーツ? 音楽? 料理?」って言って、聞かれた側が「ん?」という感じだったので、「お休みの日に何をしますか」というふうに聞き直していました。そういう言い方もあるということですね。

「博物館で働く私の友達は大学の先生もしています」この文章の何が難いしかって言うと、ちょっと長いっていうのもあるんですけども、実はこの一つの文章の中に二つ意味が入っているんですね。私の友達が博物館で働いているっていう事と、私の友達が大学の先生をしているという二つの意味が入っています。こういうのを複文というんだそうです。これは難しいんですね。

なので、だったら二つの文章に分けてしまえばいい。「私の友達は博物館で働いています。友達は大学の先生もしています。」こういうふうにごくくごくとあげると、伝わりやすいということです。



もう一個文章の言い換えの例です。実際に阪神淡路大震災の時に NHK ニュースで流れたアナウンスだそうです。

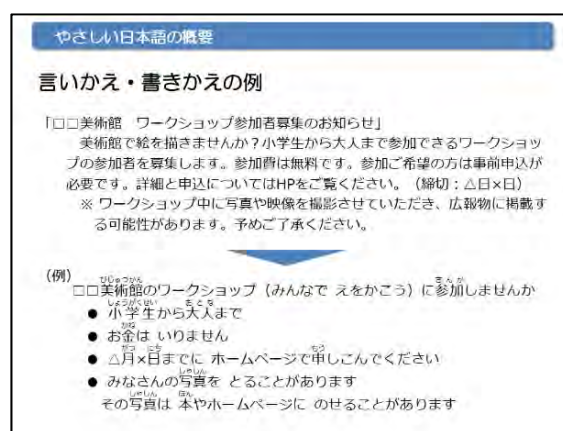
「気象庁では今後もしばらく余震が続くうえ、やや規模の大きな余震が起きるおそれもあるとして地震の揺れで壁に亀裂が入ったりしている建物には近づかないようにするなど余震に対して十分注意してほしいと呼びかけています。」

これはやっぱり分かりづらいですよ。耳で聞いて一発で理解するのはなかなか難しいと思います。常に、何が言いたいかということを考えればいいですね。気象庁が言っていることです。また揺れるかもしれないから、壊れている建物の近くには近寄らないでくださいと。なので、だったらそう書いてしましましょうということで、例えばこういうアナウンスにしてみたらどうでしょうか。

「気象庁からお知らせがありました。余震があるかもしれません。また地震があるかもしれません。気をつけてください。地震で壊れた建物の近くに行かないでください。」

これで文章が短くなってますし、余震って言葉がわからないかもしれないので、また地震があるかもしれないともう 1 回念押しをしてるんですね。気をつけてください、と注意文ということも分かるようにしてですね。こういう風に噛みくだいていってあげると途端に伝わりやすくなるということですね。

次の例ですけども、「美術館ワークショップ参加者募集のお知らせ」ということで、美術館博物館では、こういうお知らせがよく出てくると思います。



「絵を描きませんか、小学生から大人まで」ということで。書いてあること自体そんなに難しい話じゃないですけども。ずらずらずらずと文章が連続しているのが結構難しいかなと思います。

なので、こういう風に箇条書きにしてあげるとかなり伝わりやすくなると思います。あと、「無料」っていうのは結構難しいので、「お金は いりません」。ワークショップっていうのはなかなか伝わりづらいので、「みんなで絵をかこう」みたいに、そういう注釈みたいなものをつけたりということで、こういう構造的に簡単を試してみたりとやってみるとやっぱりわかりやすくなるというのが、やさしい日本語の基本だと思います。

## (6)在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン

やさしい日本語化については、国の出入国在留管理庁と文化庁が共同でガイドラインを作っています。このガイドラインの特徴は、書き言葉に焦点をあてているんですけども、3ステップで作ることを呼び掛けていることです。

### ①日本人にわかりやすい文章にする

ずらずら続く長い文章とか難解な言葉使っている公文書って、そもそも日本人にも分かりづらいですよ。だから日本人にもまず分かりやすくしましょう。

### ②外国人にもわかりやすい文章にする

先ほど私が話したポイントのような、より配慮して外国人にわかりやすいように、さらにくたきましょう。

### ③わかりやすさの確認

これが結構重要です。やさしい日本語にして、やさしくしたつもりで実は通じなかったことがよくあるので、ここは実際の外国人の人たちに、あるいはそういう人と接することの多い例えば日本語教師の人であるとか、地元の国際交流協会みたいな支援で外国人と接することが多いような人にちょっと見てもらう。一番いいのはやっぱり外国人の人に実際に見てもらうことだと思いますけど、わかりやすさを確認する、これが大事ということをガイドラインは言っています。

話し言葉については、小池知事が、感染予防の呼びかけというのを去年の12月に動画でやっていますので、これ皆さん少しお聞きください。

<小池都知事からの感染予防の呼びかけ 動画:<https://youtu.be/Ri7hGpeusgY> >



いかがでしょうか。やさしい日本語バージョンということで、すごく分かりやすい日本語だと思います。ちょっと尺の関係があってそれほどゆっくりしたしゃべり方にはなっていないんですけども、それでもいつもよりは文章ごとに切るような言い方をしてもらっています。

あとこれは我々からお願いしたのではなくて、小池知事が自分でしゃべりながらこうやった方が分かりやすいよねって言うてくれたらしいんですけども、「マスクをする」とか「手を洗う」とかってジェスチャーを交えてんですね。これがすごくいいと思います。意味を伝える上で、そういう複数の手段を提供するというのが基本になるかと思います。

## (7)やさしい日本語の意義

いままでやさしい日本語の基本を説明してきましたけども、やさしい日本語の意義というものについて、我々東京都は3つ考えています。

**やさしい日本語の概要**

**やさしい日本語の意義**

- ◎ 都内在住者の国籍が多様化する中、多くの外国人とコミュニケーションをとっていくために必要なツール  
やさしい日本語にすると、機械翻訳に入力した時の精度も上がる
- ◎ 日本人と外国人が互いに思いやりを持ち、やさしい日本語を使って歩み寄ることにより、多文化共生意識を醸成  
やさしい = 易しい (easy, plain)  
やさしい = 優しい (gentle, kind, caring)
- ◎ 在住外国人だけではなく、訪日外国人や子供、高齢者、障害者とのコミュニケーションにも有効

➡ これからの社会全体に不可欠なものとして、普及が望まれる

**①都内在住者の国籍が多様化する中で、多くの外国人とコミュニケーションを取るために必要なツール**

最近普及が進んでいる例えば Google 翻訳であるとかボイストラであるとか、あとポケットク、そういった AI 翻訳ツールがあって、非常に便利なんですけども、あれもやっぱり長文だと翻訳精度が落ちるんですね。先ほど申し上げたようなやさしい日本語の考え方、短く切って簡単な言葉にするというやさしい日本語にしてから入力すると、翻訳精度すごく上がるということが言われています。

**②日本人と外国人が互いに思いやりを持ち、やさしい日本語を使って歩み寄ることにより多文化共生意識を醸成**

やさしい日本語というのは日本人の側も外国人に伝わるように自分たちの言葉遣いを配慮する。日本に住む外国人の方も皆さんそうしてると思いますが、日本語を学ぶためにちょっと頑張るということで、歩み寄りのツールなんです。この考え方はまさに多文化共生の基本ということが言えると思いますので、こういう意義が言えると思います。

やさしい日本語の「やさしい」というのはひらがなで書きます。それは、ここにありますように、イージー(easy) とかプレイン(plain)とかいう易しい、簡単であるという意味と、カインド(kind)、

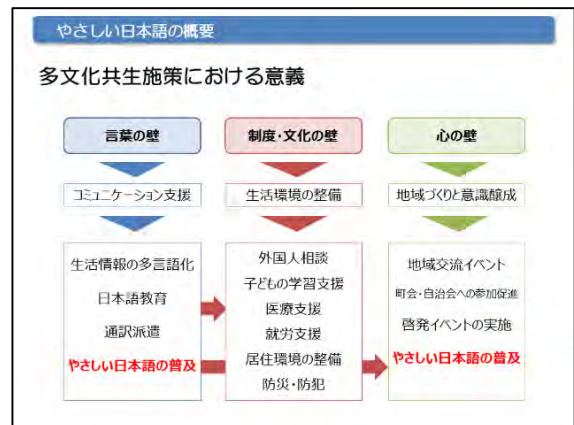
ケアリング(carering)というような意味での優しいというのをかけている、ダブルミーニングの言葉になっています。

**③在住外国人だけでなく訪日外国人や子供、高齢者、障害者とのコミュニケーションにも有効**

これは様々などところで最近研究が進んでおりまして、特に知的障害者とのコミュニケーションについてはかなり在住外国人とのコミュニケーションと通じるところがあると。それは言われてみれば当たり前の話で、日本語に関して何らかのハンディキャップなりバリアがあるような方々とのコミュニケーションの敷居を下げるという意味では、やさしい日本語というのは広く通用するツールですよ。

こうした意義から、これからの社会全体に不可欠なものとして普及が望まれると我々東京都は考えています。

**(8)多文化共生施策における意義**



私がいる都民生活部で多文化共生施策をやっているんですけども、よく言われるのは外国人が日本に住むうえで三つの壁がある。言葉の壁、制度文化の壁、心の壁がありこれに対してそれぞれ



支援をするのが今の多文化共生の基本的な考え方です。

その中で、やさしい日本語というのはまず基本的に心の壁をなくすコミュニケーション支援ですが、ただそういうコミュニケーションを支援するということは制度文化の壁を下げて、生活環境を整備することにつながりますし、さらには先ほども言ったような歩み寄りの考え方ということもあって、それが心の壁を下げて地域づくりと意識醸成にも繋がっていくということが言えると思います。

さっきから画面の隅にぴよこぴよこっとヘタウマ的なカニくんが出てくるんですけども、これは、最近東京都というか我々が使ってる非公式キャラクターの「やさカニくん」です。



先ほどから申し上げているとおり、やさしい日本語というのは文章を短くして簡単な構造にするというのが基本です。なので我々のキャラクターはハサミを持って、短くちょんちょん切っていくという意味でカニを使っています。ただし、単にいたずらに短くすればいいというのではなくて、それをやさしい気持ちでやらなきゃいけない。よってやさカニくん

のハサミはやさしいハートになっています。「やさしい気持ちで、短く、簡単に」ということですね。

ここまで概要をお話ししました。続きまして、やさしい日本語の事例をいくつかお話しします。

## ●やさしい日本語の事例

### (1)東京都生活文化局の取組

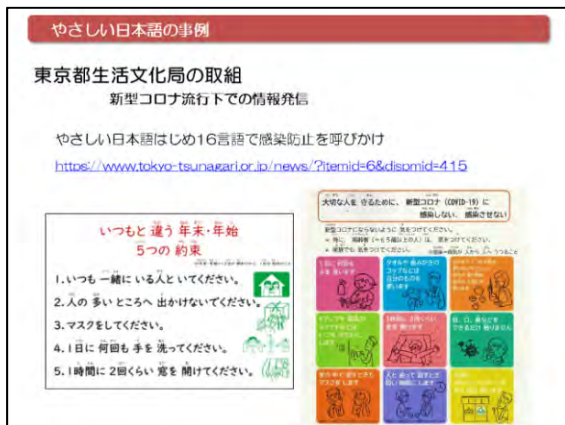
まず東京都がどういうことをしているかという話を少しさせて頂きますと、やさしい日本語の意義を伝える動画ですとか、コミュニケーションのポイントを伝える動画を作って YouTube にあげたり、街中のサイネージで発信をしようとしています。ただちょっとコロナの関係でなかなかいろんな広報媒体がいま使いづらい状況があって、せっかくいいコマーシャルを作ったのですが、ちょっと見られないところがあるので、これはリンク貼ってますのでぜひ後ほどご覧下さい。動画のうちの一つを観てもらいましょう。

<東京都作成の動画:<https://youtu.be/sT-1m5d2Jr4> >



先ほどお話したような日本に住んでいる外国人には英語より日本語の方が通じやすいということです。ちなみにこのコマーシャルに出ていただいた方はベトナムルーツの方で、よく言われる日本人は外国人を見るとつい英語で話しかけてしまう問題になっていますね。次に「ご出身はどこですか」って、これも難しい言葉で話しかけて通じないので、「あなたの国はどこですか」とちょっと日本語としてはぶっきらぼうに聞こえなくもないけれど、やさしい日本語で話しかけると、通じたと。そういうお話です。

こういったものを発信してより多くやさしい日本語を知ってもらおう。やさしい日本語の知名度は、だいたい世間で3割ぐらいらしいんですよ。7割の人が知らないっていう状況なので、それをもうちょっと変えていかないと、せっかくやさしい日本語を使っても、それを脇で見ていた人がその日本語おかしいんじゃないのみたいに言ったらちょっと雰囲気悪いですよ。そういうことがあるので一般に対する普及もしていかないといけない。



新型コロナに関してももちろんやさしい日本語を使っています、ここでの右下のチラシにあります。

すように、やさしい日本語だけじゃなくて他の16言語とかでもあわせてやっているんですけども、場面ごとにCOVID-19に感染しないためにこういうことをしましょうという呼びかけをやさしい日本語で行ったりしています。

あと、新型コロナ感染症の中で外国人の生活上の不安に応えるために、緊急対策としたTOCOSという電話相談窓口を設置しております。

相談員はまずやさしい日本語で案件を聞き取って、これはやさしい日本語はやっぱり打率が一番高い、一番広い間口を最初に設けるということでまずやさしい日本語を使います。そこで他の言葉の方がいいですという話になれば、必要に応じて多言語相談員に繋ぐという方式をとっている相談窓口なんですけど、今まで1年で大体5,000件ぐらい相談を受けていまして、対応言語の1位が日本語もしくはやさしい日本語なんです。日本語もしくはやさしい日本語と言ってるのは、外国人の付き添いのネイティブの日本人が電話をかけてくることもあるので、全部がぜんぶやさしい日本語ではないんですけど、ただいずれにしても4割ぐらいは日本語で聞き取って別の言語の相談員につなぐことなく、日本語で用が済んでるということでやっぱり日本語が間口が広い。次にくるのが英語で20%、中国語13%、その下にネパール語10%、ネパール人が増えている現状がここも反映されています。

## (2)事例

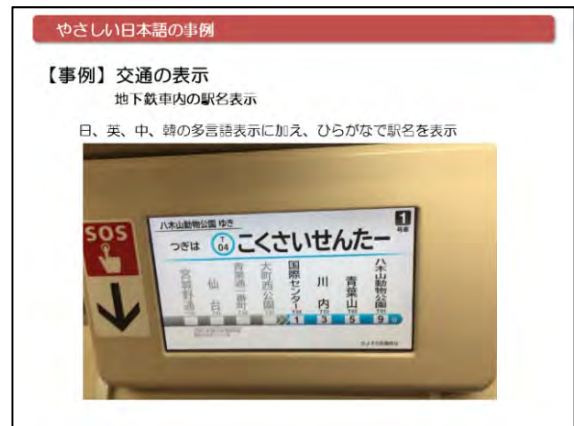


やさしい日本語はいろんなところで使われています。テレビテロップでも使われ始めていますし、NHK ニュース Twitter の方はおとし台風 19 号が来た時に、ちょっとこれにネガティブなコメントがついたりして話題になったりしましたが、Twitter でもこういうやさしい日本語的なものが使われ始めている。

ただテレビテロップなんかだと各局統一してないんですね。これはおとしの地震の時に津波警報が出た時のテロップなんですけど、他のチャンネルはこういったテロップ出してなかったですね。あとこういうテロップを出すテレビ局でも、やさしい日本語と知らずに使っているところは結構多いそうです。他局がひらがなでやっているからうちもひらがな出してみました、みたいな。それでも出してくれればいいんですけども、やさしい日本語に関しては周知がまだまだかなと感じたりします。

ただ、公的機関では普及が進んでいて、総務省消防庁のガイドラインなんですけども、火災警報の音声とかサイネージにおける表示なんかでもやさし

い日本語的なフレーズを使うことが公的なガイドラインに乗り始めているということです。



あと交通表示、これは地下鉄の例ですけれども、日英中韓に加えてひらがなで駅名を表示するのはやさしい日本語的な考え方によるものです。

公の施設における活用ということで、名古屋市文化振興事業団が作って愛知県の芸術劇場で受付のところで使っているコミュニケーション支援ボードというものがあります。これは障害のある方や日本語を母語としない方に安心して来館してもらうことを目的としています。やはり障害のある方と日本語を母語としない方っていうのはコミュニケーションに関してかなり共通するところがあると。やさしい日本語と英中韓とイラストを併記して、チケット買いたいんだけどとかトイレどことか、定型的なものについてはすべて指差してコミュニケーションが取れるという例です。

メディアによる発信も少しずつではありますが増えていて、NHK NEWS WEB EASY は結構前からやさしい日本語による発信を行っています。

最近ですが朝日新聞社の withnews という媒体がやさしい日本語による情報発信をされていて、外国人の人は普通の Web サイトよりも SNSの方が使うのでここは Facebook による発信に力を入れています。あと連載で「役所をやさしく」っていうのがあって、神戸市長がやさしい日本語推進プロジェクトを若手と外国人職員をチームにして作っているんですけども、その人たちが悪戦苦闘してる様子を連載で紹介したりしています。職員がやさしい日本語をやれって言われて庁内でやさしい日本語を推進して、他の部署に言ったらどうしてやる必要があるんですかとか言われてしまって落ち込むとかですね。そういう悪戦苦闘の様子が描かれて、私なんか東京都職員として身につまされるところがあったりします。

障害者とのコミュニケーションでは、一般社団法人スローコミュニケーションというところが知的障害のある人達にも情報をわかりやすく届けたいということでホームページとアプリで分かりやすいニュースを発信しています。

発信する側が何より情報提供のあり方というのを身につけないといけない、ということで、「分かりやすさをつくる 13 のポイント」という冊子も制作しています。



コロナ禍で医療従事者向けにもやさしい日本語が必要という話もあります。

今は保健所や、病院でも外国人対応がものすごく大きな問題になっています。なかなか医療通訳っていうのは手配するのが難しいですね。診療の実際の現場だと、やさしい日本語で全部いけるかっていうとちょっと難しいですけども、ただ受付であるとか、お会計であるとか診療でも簡単な検査の時のやりとりとか、そういうものはやさしい日本語でできたほうがずっと受診のハードルが下がるといことで、医療×「やさしい日本語」研究会。順天堂大学の武田裕子先生が中心になって、医療現場で用いられるやさしい日本語に関する教材作成や研修会を実施している例です。これからはおそらくワクチンについて、外国人にその必要性や打つ手続きなどをいかに伝えるかというのが大きな問題になってくると思いますので、そこでもやさしい日本語が必ず活躍するはずですよ。



あと地域の国際交流の事例で、明治大学の国際交流運動会です。中野区は今コロナ禍で減っているんですけど、それまでの5年間で在住外国人が倍になるという外国人急増地域なんですね。ただ地域の住民の方から最近外国の方が増えているんだけど全然交流ないよねっていう声が上がって、それで中野区にキャンパスのある明治大学が交流運動会を企画したというものです。

写真があるんですけど、ラジオ体操とか綱引きとか大玉ころがしみたいベタなやさしい日本語ですね、様々な国籍の外国人の方、17カ国だったかな、それと地元の家族連れの人と一緒にやさしい日本語で会話しながらやるという企画です。

面白かったのは、私も参加したんですけども、チームの中に確かベトナム、ミャンマー、中国、台湾あとロシア、モンゴルだったかな、それくらい様々な国の方がいらしてですね、あと家族連れがいたんですね地元の。で、やってるうちに、子供達に話しかける言葉と来日数ヶ月の外国人の方に話しかける言葉ががだんだん共通していくといったあたり、やはり同じなんだなと。同じツールが使えるというのが実感できてかなり面白かったです。

ひらがなネット株式会社は、料理レシピをやさしい日本語で発信しています。家庭料理を作りたいという外国人の方が結構いらっしゃるの、日本の家庭料理のレシピをやさしい日本語で紹介している例です。

あと文化施設です。今日は博物館ですがこちらは美術館の例で、東京都美術館などの上野の文化施設がやっている「MuseumStart あいうえの」では、やさしい日本語を活用したイベントなどで外国にルーツを持つ子どもたちの文化施設デビューも応援しています。

私も参加したんですけど、「美術館でポーズ！」というイベントでは、海外ルーツの子どもたちと日本人の子供たちが混ざり合ってダンサーと一緒に自分たちでも色々ポーズを取りながら写真を撮って、その写真に自分たちでタイトルを付けるというワークショップでした。

その時にちょっと面白かったのは、やさしい日本語の一步先を行こうとしたんですね。やさしい日本語だと普通オノマトペって避けるんですが、やっぱり美術館みたいなところで表現をするにはオノマトペ使いたいですね。なので、オノマトペをやさしい日本語で解説してあるカードを用意して、子供たちにこのカードに書いてある言葉使っていいよということでオノマトペをあえて使って、子供たちが自分の写真にタイトルをつける。そういう風に、日本語の一步踏み込んだその体験と感性の刺激っていうのを両方やろうとした例ですね。自分の写真に「うっとり」というタイトルを付けた子供がいて、私はそれを聞いてちょっと感動してしまいました。



ちなみに都立の文化施設は「クリエイティブ・ウェル・プロジェクト」というものを始めております。

これは、多文化共生と少子高齢化の対応プログラムと障害者対応プログラムっていうのを、セットというか諸々合わせて、博物館・美術館・劇場の中で多様性とか包摂とかそういうものにつながる、社会課題の解決につながる事業としてやっていこうということで、先ほどの東京都美術館だけじゃなくて各館でこれから進めていくということになっています。その中の多文化共生プログラムの中には、やさしい日本語を用いた鑑賞サポートをいうことも掲げられています。

芸能関係で言うと、やさしい日本語落語というのがあります。桂かい枝さんという方が落語を外国人にも分かりやすく笑えるものにするということで、かねてから英語落語の取り組みなんかやってきたんですけども、最近はやさしい日本語落語というのに挑戦しています。

普通の落語はかなり前提を共有しているということで細かい説明を省いちゃうんですけど、やさしい日本語落語は丁寧に説明すると。それだとリズムが切られちゃって笑えないんじゃないかなって

う風に思ったんですけど、面白いんです、笑っちゃうんです。これリンクを張っておくので、動画を是非見てみてください。やさしい日本語でも十分落語というのが成り立つということがよく分かる動画です。

### (3)まとめ

事例はここまでで、最後少しまとめの話をして。

やさしい日本語の意義もう1回おさらいしますと、多くの外国人とコミュニケーションをとっていくために必要なツールである。日本人と外国人が互いに思いやりをもって歩み寄ることにより多文化意識、共生意識を醸成する考え方である。外国人だけでなく子供・高齢者・障害者とのコミュニケーションにも有効である。

こういう意義があるということを踏まえた上で、やさしい日本語の注意点についてお話しします。

**まとめ**

**やさしい日本語の注意点**

○「やさしい日本語」に一つの正解はない

- やさしい日本語には、こう言えは必ず伝わる、という決まった答えはない  
外国にルーツを持つ人々の日本語能力は様々  
中国出身の人にはひらがなより漢字の方が伝わる場合も  
「全部ひらがな」の問題、振り仮名と( )書きの問題
- 相手によって何が「やさしい」のかを考えながら、色々な方法を試してコミュニケーションをとっていくことが重要

➡ **知識以上に大切なのは、相手の困り事に応えたいというマインド  
(受け手側の事情に配慮する意識)**

まず1つ目は、やさしい日本語に一つの正解はないということです。やさしい日本語にはこう言えば必ず伝わるという決まった答えはありません。外

国にルーツを持つ人々の日本語能力は様々ですし、例えば中国出身の人にはひらがなより漢字の方が伝わる場合もあります。あと先ほど申し上げましたが、全部ひらがなにしたらわかりやすいかというところ、そういうわけでもないわけですね。ふりがなについては、SNS だとふりがな振りづらいのでカッコ書きで代用するんですけど、カッコ書きがいっぱいあると見づらいです。

なので、そういった様々な環境、媒体、相手方、こういうのも考えていく必要があるということで、知識以上に大切なのは相手の困りごとに応えたい、なにがやさしいのかを考えていくマインドだということが言えると思います。受け手側の事情に配慮する意識ということですね。

まとめ

**やさしい日本語の注意点**

○ 全ての場面で「やさしい日本語」を使うべき、というわけではない

- やさしい日本語は、使う語彙を絞りこみ、文章を短くするため、盛り込む情報量に限界がある
- 専門的な内容や文学など高度なニュアンスを伝える場合、心理的な安心感をもたらしたい場合、傾聴すべき場合などは、母語等の通訳・翻訳が必要
- 固有名詞など、あえてやさしい日本語に直さない選択も必要  
例) 「保証人」と「保証する人」

➡ 時と場合に応じた使い分け、何をどこまで伝えるかの判断が重要

2つ目の注意点は、今日は博物館関係の方が聞いていらっしゃると思うので、皆さんの専門分野と関わってるところだと思います。

全ての場面でやさしい日本語を使うべきというわけではないということです。やさしい日本語は扱う語彙を絞り込み文章を短くするため、盛り込む情報量にどうしても限界があります。専門的な内容や文学など高度なニュアンスを伝える場合、あと

傾聴すべき場合、心理的な安心感をもたらしたい場合などは、母語等の通訳翻訳が必要です。

私、都立文化施設に関する仕事をしていた時期が長くて今でも色々とお付き合いがあるんですけども、例えば池袋にある東京芸術劇場の方から言われたことがありますして、その人にやさしい日本語の話をしたら、演劇のセリフっていうのは難しいかもしれないけども、それを通じて日本語の良さやいろんなことを学んでいくんだから一概にそれをやさしくしちゃうってのはちょっと問題なんじゃないの、と。特に東京芸術劇場は芸術監督が野田秀樹さんという言葉遊びが専門みたいな人なので、そういうやさしい日本語って聞いた時にん？って思われたとしたら、それはまあおっしゃる通り。

ただ、日本語を学んでる途中の方が、何の注釈なしにいきなりその難しい言葉あそびを聞いてわかるかって言うと、だから間が必要じゃないかなと思うんですよね。

また、今日ちょっと江戸東京たてももの園の方にも参加して頂いていますけれど、今江戸東京たてももの園の園長をされてる方にも私やさしい日本語の話をしたことがあって、博物館のキャプションはしなくてもいいよね、と言われました。

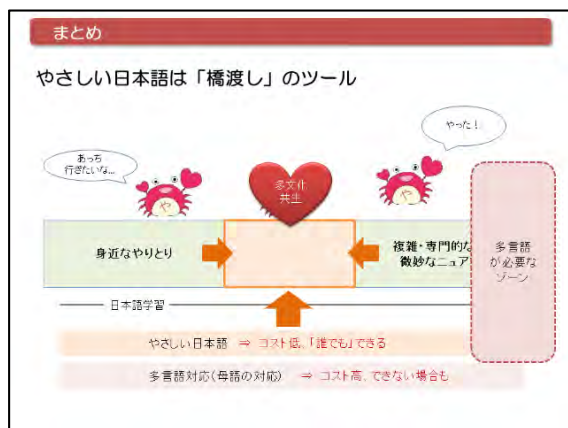
やっぱりこう、アカデミックな観点であるとか正確に記したいと言う立場、それからいろいろ情報を入れたいという立場からすると、展示物そのものに付けるキャプションではなかなかやさしい日本語は難しいのではないかな。これも聞いてですね、まあそうですね、と。

ただ、やっぱりそれをいきなり読むのも結構難しいですね、とも思ってですね。だからその間が必要じゃないかな、と思いました。

これがちょっとこの後の話につながるんですけども、その前にあとちょっとひとつ言えるのが、固有名詞などはあえてやさしい日本語に直さない選択も必要だと思います。

例えば、「保証人」という法律用語と「保証する人」という日本語は意味の範囲が違うんですね。法律用語なんか特にそうですね。その言葉をもって指す範囲がきちりしているものについては、やさしい日本語に直してしまって意味がずれてしまうと思います。なので注釈をつけるとか色々考えると思いますけども、あえて直さない選択もあるかと思っています。

時と場合に応じた使い分け、何をどこまで伝えるかの判断が重要です。



今、何度も間が必要なんだって話をしましたけども、やさしい日本語は橋渡しのツールなんだということが言えると思います。

日本語学習が進んでいくにつれて、身近なやり取りからだんだん難しい言葉に行くんですけどもやっぱり専門的な情報、複雑な情報、微妙なニュアンスはたどりつのが難しい。

だけでもそこまで一気に勉強するのは大変だ、となると、やさかニくんが出てきましたけども、できるだけ近づきたいな一っていう時に間があいちゃっているわけですね。谷みたいになっていると。

そこで手段は2つあって、1つはやさかニくんがどこの国籍なのかとかありますけども、多言語対応してあげる、母語に翻訳通訳するという手段はあるんですけども、ただ翻訳通訳ってやっぱりコストかかるんですね。コストがかかる、時間がかかる。少数言語の場合なかなかしづらい場合も多いと。

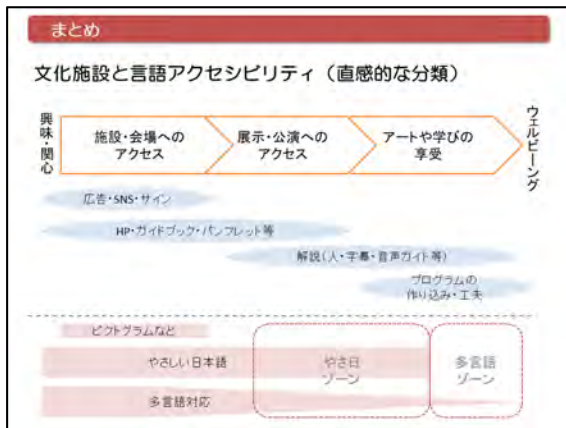
一方やさしい日本語ではどうかと考えた時に、やさしい日本語の場合コストは低いです。日本語ですから、考え方を身につければ基本的に誰でもできる。となると、その間を埋めてあげるのはやさしい日本語が相応しい場合が多いのかな、と。

間をやさしい日本語で埋めてあげることによってやさかニくんが渡っていくと。そのやさしい日本語についてはやさしい日本語を勉強していく側とネイティブの側が両方の側からのアプローチが必要であろうと。

で、歩み寄りの考え方で多文化共生になるんですけども、ここで先ほどの注意点に戻るならば、やさしい日本語では複雑専門的な情報を全部は伝えきれないんですね。なので、やっぱり最後は多



言語が必要なゾーンというのが出てくると いうことが言えると思います。



そうしたことを文化施設に当てはめて、ちょっと直感的な部分もあるんですけども整理したのがこの表です。

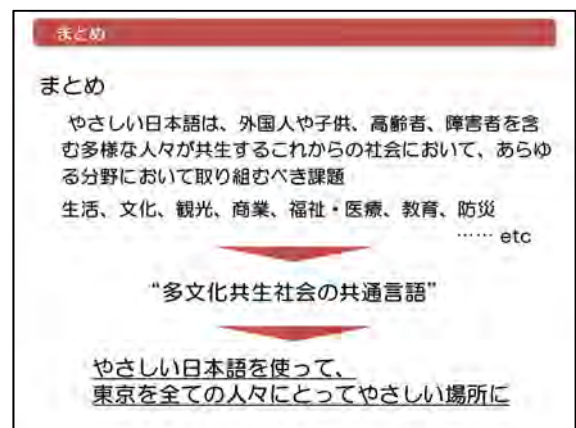
左側から右側に流れてくと、興味関心を持って最終的にウェルビーイングって書き方をしますが、そこで美術館も博物館もアートとか学びから何かを自分の人生の糧として得ていく、ウェルビーイングに至る までというのはいくつかのプロセスがあると思います。

まず施設・会場に到達しないとダメです。次にその中で展示とか公演へアクセスできないといけません。その先にその展示とか公演内容から得られるアートや学びがあると思うんですね。そのため手段は真ん中にあるように広告だったり SNS だったりパンフレット、それから人とか字幕、音声ガイドによる解説、あるいはプログラムそのものの作りこみ、工夫というのがあると思います。

ここでやっぱりやさしい日本語と多言語対応、あと入り口にはピクトグラムもあると思いますけども、

そういったものを考えていくと、やっぱり多言語対応は難しい内容になればなるほどコストが上がっていくし、やさしい日本語はあるとこまでは低いコストで出来る。つまり、やさしい日本語でやった方がうまくいく場合が多いゾーンと、その先はやっぱりやさしい日本語では伝えきれないということで多言語で対応すべきゾーンがあるのかな、と。これだけきっちり線で分かれるのかという別ですけども、そういう使い分けを意識して、やさしい日本語と多言語というのは両輪じゃないかな、というふうに考えているのが最近の私のスタンスです。

最後のまとめです。やさしい日本語は多様な人々が共生するこれからの社会において、生活・文化・観光・商業・教育といった様々な分野において取り組むべき課題だと考えます。「多文化共生社会の共通言語」ということが言えるかもしれません。これを使って、東京すべての人々にとってやさしい場所にしていく。これがわたくしたち東京都の基本的なスタンス、ということでまとめさせていただきます。



私からの説明は以上です。

## 3-2.多摩六都科学館の取り組み事例

多摩六都科学館 研究交流グループ  
高尾戸美



ここからは当館の取り組み事例を紹介させていただきます。

改めまして多摩六都科学館の高尾と申します。  
よろしくお願いいたします。



まず多摩六都科学館がなぜやさしい日本語に取り組んでいるのかということ。そして当館の3つの事例についてお話ししたいと思います。

まず、多摩六都科学館について簡単にご説明差し上げます。東京都の多摩北部にあり、5つの市が共同で設置し運営する科学館です。元々は西東京

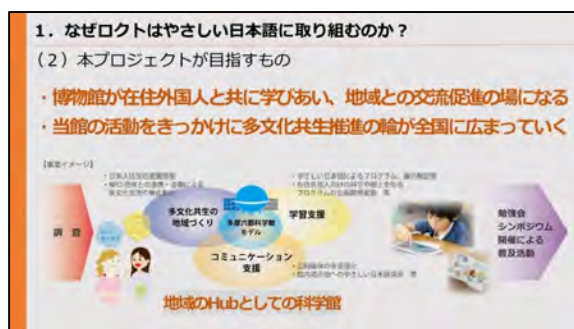
市が田無市と保谷市でしたので、それらを数えてみると6つあるということで多摩六都という名前がつけました。1994年にオープンしまして、2012年に指定管理者制度が導入されました。現在は乃村工藝社という民間が運営しています。昨年度(2019年度)は来館者数が約22万6,000人、こちらは残念ながらコロナの影響を3月に受けましてそれがなければおそらく過去最高であったかもしれないという状況でした。コロナの影響を私たちも受けております。展示施設につきましては、プラネタリウムドームが特徴的でして、世界一の星空を投影することができる投影機があります。この他、5つの様々な体験ができる展示室があります。

それでは、なぜロクトがやさしい日本語に取り組むのか。これは私たちがまず地域社会の一員として、博物館として社会課題に対しどのようなことができるのか、そのことがまず発端にあります。これは博物館が地域社会に存続する意義というのに関わってくると考えています。

多摩六都科学館では目指す方向性を2つ定めておりまして、そのうちの一つはミッションです。ミッションは2つありまして一つ目は誰もが科学を楽しみ自分たちの世界をもっと知りたいと思える多様な学びの場を作り上げること。二つ目は活動の幅

を広げ、人々をつなげ地域づくりに貢献することで、つまり私たちは科学の楽しみを伝え、学びの場を作る以外にも地域づくりに貢献するということをまず一つミッションに掲げているのが特徴になります。

もう一つは中長期計画にあたります、第2次基本計画です。こちらの中に「ソーシャルインクルージョンに基づき、誰もが楽しみ交流できる場を作りあげる」という文言が2016年に追加されました。その中で私が考えた一つの社会課題に挑戦しようと思ったことが、この国内の在住外国人を取り巻く環境の変化に何かできないかということでした。多文化共生の社会の実現、そしてその中の一つにやさしい日本語の活用があります。この実現のために昨年度より文化庁から助成金を頂いております。平成31年と今年令和2年度の2年連続でこのプロジェクトに取り組んでいるところです。



目指すものとしては、博物館が在住外国人と共に学びあい地域との交流促進の場になる。もう一つは私たちの活動が多文化共生の推進に興味を持ち、私たちも取り組んでみたいと思うような博物館界の仲間を作りたいというふうに考えてお

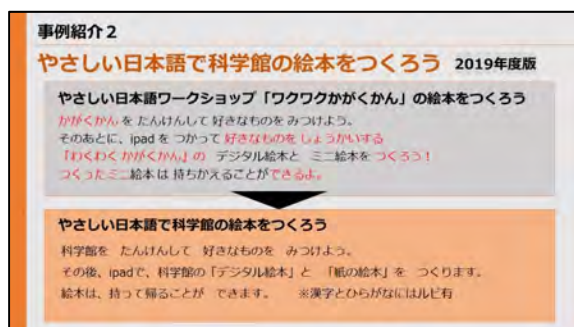
ります。その中で共に学ぶことができる事として、やさしい日本語に可能性があると感じています。



ここから先は当館のやさしい日本語の事例について紹介します。一つ目はやさしい日本語で情報発信の事例として、ホームページの紹介です。昨年度のプロジェクトの中でやさしい日本語のWebページを開設いたしました。当館のホームページの右肩の上の方「Languages」の隣にやさしい日本語というボタンがあります。そこを押すとご覧のページに到達します。料金等の利用案内や、館内展示のこと、アクセス、プラネタリウムの情報などが掲載されています。これらは広報関係の方はよくご存知かと思いますが、情報をこれ以上増やしていく形にはなっておりません。そのため旬の情報はPDFファイルとして追記で出しています。これは新型コロナウイルスの対応として私どもが利用者に対し来館にあたりお願いしたいことをまとめているものです。これ以外にも月に1度、二つぐらいのイベントをピックアップして、やさしい日本語版を公開しています。



二つ目の事例はやさしい日本語のイベントチラシです。今日ご紹介するのは「やさしい日本語で科学館の絵本をつくろう」というイベントの広報を作るときにあたって私が最初に作った文章をこれからお見せしたいと思います。こちらは私が最初にやさしい日本語風で作ってみた原稿です。突っ込みどころが満載だということは皆さんも先ほど村田さんの講義の中でお気づきかと思います。「ワークショップ」という言葉が入っていたり、「わくわく」という言葉が入っていますね。そのまま公開するわけにはいかなかったので、先ほども出てきたひらがなネットにこちらの文章を見ていただきました。その結果として修正していただいたのが、下の広報文になります。赤字で表記したところに一つ問題がありました。



「科学館」は既に「多摩六都科学館」という固有名詞になっているので、もう漢字にしてしまっているのではないかと、その代わりにルビをふりました。

その他、重複のある所を削除する。あとは「わくわく」という言葉を使わない。「作ろう」という問いかけは使わない方がよいとのこと。また当館ではよく子供向けに「何とかができるよ」というような問いかけを使うのですが、このような表現ではなく、「ですます」で表現する。その結果としてタイトルも「やさしい日本語で科学館の絵本をつくろう」になりました。固有名詞で変えようがないものはそのまま、シンプルな文章に置き換える。ひらがなにすればいいというわけではない、というのは本当にその通りだと思います。



これが昨年度の「やさしい日本語で科学館の絵本をつくろう」のチラシです。これは 2019 年度のもので、さらに地域で活動している方からの意見などを反映して作ったものが今年度のもので、こちらも基本紹介は同じですが、両面を活用し、裏面には科学館のコンテンツを紹介するための館内の案内図をつけました。表面についてご紹介します。科学館で体験できるものについて四コマ漫画のようにわかりやすいものを表示しました。ここに来ると何ができるのかよく分かったとアドバイスを頂きました。裏面につきましては何ができるのか上方に簡潔にまとめました。その他それぞれの場所には

簡易なコメントをつけました。しかし、やさしい日本語に正解はないということで、これがベストかどうかは私達もまだわかりません。さらに良くしていくにはどうしたらいいか、いろんな方の意見を聞きながら伝わるチラシを作っていきたいと考えています。



最後にやさしい日本語スタッフ研修についてご紹介いたします。こちらはプロジェクトの中で2年にわたり実施しているスタッフ研修です。やさしい日本語について、館内のほぼ全スタッフが参加しています。昨年度はやさしい日本語の基礎を理解した上で、書き言葉を作ってみるということを行いました。今年度のスタッフ研修では、在住外国人 8名をお呼びして現場でのコミュニケーション、会話研修を行いました。各持ち場ではやさしい日本語でのコミュニケーションを想定し、それを在住外国人の方を相手に説明を行ったり、質問に対して受け答えをすることに挑戦しました。



オレンジのジャンパーがみえる方が展示室の様子です。中央の写真は受付です。そして一番右の写真はショップになります。お客様はいつどの場所に来るか、どの場所に行くかはわかりません。館内のすべてのスタッフがやさしい日本語を話せる、もし話せなくてもやさしい日本語を使えばコミュニケーション取れるという意識があれば、今までよりコミュニケーションを取ることができるようになる。そのような環境を館内につくっていきたいと考えています。次の年度の研修はより実践的に継続して行なっていきたいと考えています。この写真は研修後に記念撮影を撮ったものです。アジア系の方はマスクをしていたら日本人のようにみえます。日本語で話しかけて通じないと思ったらやさしい日本語使う行動につながるとよいと考えています。駆け足で説明をしましたが、以上、多摩六都科学館のやさしい日本語による取り組み事例を紹介させて頂きました。



### 3-3. 質疑応答

---

高尾: 質疑応答の時間に移りたいと思います。では蓮田さんをお願いします。

蓮田: 村田さんへの質問が3点来ております。まず、「質問ではないのですが、最後の参考文献の情報をもう一度あとで頂けたら嬉しいです。」ということです。

2点目、「在住よりも観光客が多い場合、やさしい日本語と多言語の割合はどのように考えたらよいでしょう。」お願いいたします。

村田: まず参考文献なんですけれども、先ほど4冊あげました。資料は後で確か配布されると思うので、書名を見ていただければと思うんですけども、一応一言ずつコメントを加えると、まず岩波新書ですね。庵功雄先生という方の『やさしい日本語』というタイトルの新書が出ています。この本はやさしい日本語の考え方、先ほど私がやさしい日本語の意義みたいな話をしたんですけど、多文化共生という文脈の中でやさしい日本がどういう役割を果たすべきなのか。これからどういう意味を持つのかということについて、すごく分かりやすく説明してある本です。

あといくつか紹介したうちの、吉開章さんという方の『入門やさしい日本語』という本もありまして、これもおすすめです。これはそういう考え方の基本に加え、日本語というものがどういう風に構造的に難しいのか、逆に言うとそこをどういう風に構造的に変えていくとやさしくなるのかということについてすごく分かりやすく書いてあって。練習問題とかも結構載っているんで、ちょっと実践やってみようかなっていう人にお勧めです。

もう1つが岩田一成先生という方と柳田直美先生の「公務員のための外国人対応」という本ですね。これは基本は役所の窓口みたいなところでいかに外国の人に物事をわかりやすく伝えるか、逆に言うと今の役所の窓口はいかに外国人の人たちに通じないコミュニケーションをしているかといったことが具体的な事例をもとに書いてあって。別に窓口対応を行う公務員だけじゃなくても、外国人が来て質問とかに答える際、こういう言い方ならいい、こういう言い方がダメなんだということが具体的に分かるお勧めの本です。

もう1つ、在住よりも観光客が多い場合、やさしい日本語と多言語の割合をどのように考えたらよいでしょうか。

コロナ流行前の国際交流基金と電通の調査なんですけども、海外から日本に来ている観光客のうちの大体半数ぐらいが香港と台湾と韓国、この3

地域から来ている方々なんです。ちなみに中国人を加えると中国人が 1/4 ぐらいなので、だいたい東アジアだけで外国人観光客の 3/4 ぐらいを占める。半分が韓国、台湾、香港。で、韓国と台湾と香港というのは日本語を勉強してる人が非常に多い国なんです。特に台湾の方が多くて、3、4 人のグループだったらかなり高い確率でその中に日本語が分かる人がいるという話もあります。こちら辺のデータについては、やさしい日本語ツーリズム研究会というホームページがありまして、そこをちょっと見ていただければと思います。あと、福岡県の柳川市ってところがあるんですけども、そこは観光の街なんですけど、そこに来られる外国人観光客がほとんど台湾からの方みたいですね。それでもやっぱり最初は英語でアプローチしたところ、通じなかった。日本語の方が全然通じたことから、今は柳川市はやさしい日本語によるツーリズムを行っています。

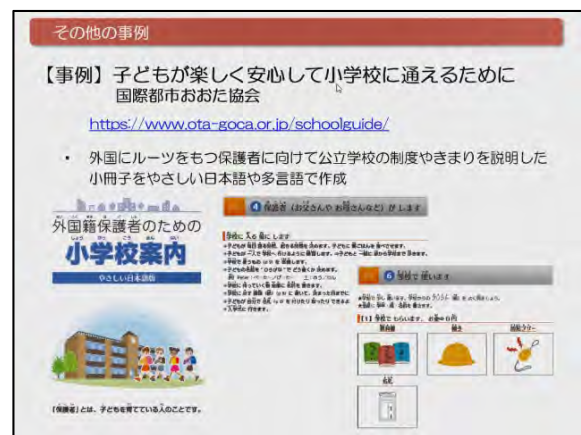
ですので、在住だからやさしい日本語、観光だから多言語って話じゃなくて、やはり観光客だとしても近年の東アジア、東南アジアの方からの観光客が多いという傾向も踏まえると、観光が多い場合でもやっぱりやさしい日本語と多言語というのを併用する、これが一番いいのかなというふうに考えます。

特に台湾、香港、韓国からの方が多く場合は、やっぱり在住の方と同じように、英語よりも日本語のほうが打率は高いかもしれません。

蓮田:では、3 つ目の質問です。「私は外国人で、子供が4月に小学校に入学する予定ですが、入学手続きの書類がとても難しいです。行政用語のやさしい日本語についても可能であれば教えてください。

村田:行政用語は本当に難しいですよ。先ほどガイドラインの話の時もしましたが、そもそも行政が使っている日本語が難しい。この方はお子さんが小学校入学予定だということで、特に小学校とかだと特殊な言葉の問題もありますし、言葉だけじゃない日本独特の慣習とか文化の話もあるかと思います。

例えばランドセルを自分で買わなきゃいけないとかですね。あとは学校に入ると学校から毎日お便りが来てそれに従っていろいろ毎日持ち物が変わります、みたいなものってなかなかそういう習慣がない国には難しいですね。



ちょっと画面共有します。これは、国際都市おおた協会という大田区の協会の例なんですけれども、外国にルーツを持つ保護者の方に向けて、公立学校の制度や決まりなんかを説明した冊子をやさしい日本語といくつかの言葉、ネパール語、英語、中国語、ミャンマー語だったかな、多言語で作成しています。

だからこういったものを本当は全部の区市町村で用意しているといいのかなと思うんですけども。いくつかの国際交流協会で用意したり、あとNPOとかで用意している例もあります。文京区の文教多言語サポートネットワークという団体があって、そこも子供が小学校に入学するお父さんさんお母さん向けの冊子を作ったりしていますし、画面にも出てますけど、学校でもらえるものがなにごで、学校で買わないといけないものがなにごで、学校で買うのか自分で買って持って行くのかって結構難しいんですよ。私も子供がいますけども、子供が入学する時にはどれを買えばいいかわからないのかなってすごく気をつかった覚えがあるので、外国ルーツの方だとなおさら難しいだろうということです。

じゃあこれ東京都で作ればいいじゃんって話なんですけども、微妙にその区市町村それぞれでルールが違うんですね。だから基本的に義務教育って区立小学校、区立中学校、市立小学校、市立中学校なので。そこでそれぞれ作って欲しいというのがありますけど、もし地元が無い場合はこういったものを入手されるというのはありかなという風に思います。

あと支援の団体が作るんじゃなくて、本当は学校側がそもそもやさしい日本語で出してあげるといいような気がしますよね。そういう事例も出てきていて、例えば港区立の六本木中学です。ここはやっぱり六本木という土地柄、外国籍の保護者が多いんですね。なので、運動会のお知らせとかいろいろお知らせをやさしい日本語で出してるという事例です。

今我々東京都がやろうとしているのは、そういう事例、今日は博物館の方々が対象ということでこのおおた教会の事例は入れなかったんですけども、こういうのをいろんな機会を捉えて、こういうものがあります、こういうものが必要なんですけどいうのを訴えかけていって、いろんな自治体とか学校側もそういう意識を高めて、やさしい日本語で出していくっていうのがいいのかなと。

学校がやさしい日本語が外国人に有効であることに気づいてくれれば、というのも、去年コロナで一斉休校がありまして、小中学校、その時私の子供が小学校3年生だったんですけど、校長先生が子供向けに手紙を出してくれたんですね。特別な事なので。その手紙は全部漢字にふりがなが振ってあって、意識してやったのか分からないですけど分かち書きもしてありました。やさしい日本語になりきったかという微妙なところなんですけど、ただ、それはもう考え方としては外国ルーツの保護者の方と子供に話すのとは伝えていくという意味では一緒なので、学校でもそういう取り組みが増えていけばいいとも思うし、増えなきゃいけないと思っています。



蓮田;こちらやはり持ち物の準備も多くて大変という風に追加でコメントが入っています。やはりお住まいの区市町村のところでちょっとお声がけいただいてサポートとか聞いてみるといいかなとことでしょうか。

村田;そうですね。地元になかったら、おた協会員みたいなところも、区市町村ごとに違っているって言っても「うちはランドセルはいりません」、みたいな所は多分あんまりないので、参考にしてもらえませんか。

蓮田:ありがとうございます。質問は以上になります。

高尾:村田さんに質問です。防災や学校に関わる事は生きていく上でマストな情報です。私たちの伝えたい文化や芸術、科学も生きていく上では必要ではありますが、やはりその次ぐらいに必要なものといったイメージがあります。私たちがやさしい日本語が必要な人に対して情報を届けていくためには、もっと出来る事はありますか。

村田:やっぱり防災情報から始まって、緊急性の高い部分からそうじゃないところに広がって、という流れがあって、その中でそれぞれにどういう重みを

つけて取り組んでいくかみたいな話があると思うんですけど、今の直接の答えになっているか分からないんですけど、やっぱり私の説明の最初の方で言ったように、長く住む人がすごく増えているんですね。ゆりかごから墓場までじゃないですけども、小さい頃に来て普通に学校に行っていてその中で多分災害にも遭うでしょう、お医者さんにもかかるでしょう。その人が生まれてから亡くなっていくまで日本社会で暮らしていくとすると、緊急性の大小はあるかもしれないけど、軽重っていうのはあんまりなくて、文化的なものや社会教育的なものっていうのも、今日聞いてらっしゃる方は皆さんその重みがよくわかっている方たちだと思うけれど、全然不要なものでもなんでもなくて、むしろ人が長くその社会で生きていくには不可欠なものだと思うんですね。

なので、私がさっきの説明のまとめのところで、あらゆる分野でっていうのを強調して、例えば教育であれ生活文化であれ、あるいは防災の分野であれ福祉であれみたいなことを、ちょっとくどいぐらいに言うのは、やっぱり最終的にはこっちは必要だけどこっちは必要じゃないみたいな話じゃなくて、それはやさしい日本語でも他言語でも全部そうで、特にこれからは日本の社会がどうなっていくのかって考えた時には、まさに生活分野、あるいは生活の隅々まで。エンターテインメントでもそうですし、そういったものにやさしい日本語を使っていく考え方、それはすなわち多文化共生ですよ、それが広がっていきなさいいけないんじゃないかなと思います。

高尾:ありがとうございます。その中の1つが落語というのが先ほどの流れですね。

村田:はい。だから私さっきのやさしい日本語落語はすごく好きなんです。今、2分ぐらい時間があれば流せますけど。じゃあちょっと流しましょう。

<やさしい日本語落語の映像:  
<https://youtu.be/ZlfuBGTK2Xk>>

村田:やっぱり、道具として使われているということも、必要性に応じてっていうのも大事ですけど、落語みたいに一見不要なところにもどんどん広がって行って、それが楽しくなって心がほっこりする中でなんとなく境界線がなくなってるみたいな、そういうのが一番いいと思うんですね。

高尾:やさしい日本語の広がりを感じますね。もしかしたらダジャレもやさしい日本語でできるようになる日が来るかもしれませんね。

村田:そうですね、そこも多摩六都科学館の課題ですかね。ダジャレを通じてやさしい日本語に取り組んでもらえたら。

高尾:先ほどの入学準備に関する情報を参加者から頂きました。東久留米市の国際友好クラブで冊子を出しているようです。PDFで冊子化されているのでご覧いただければということです。

このようなところにも、きっと私たちのヒントがたくさんあると思います。博物館以外のところから、冊子やWEBで学べるのがたくさんある。

村田:私が今日ひらがなレシピを事例に入れたのも、もしかすると博物館とか美術館でくだいて説明するみたいな話の参考になるかなと思ったので入れてみました。

高尾:これで最後の質問にしますが、共通する課題ですね。

村田:共通する課題はやっぱり、知名度と言うか認知度の問題だと思います。

先ほど言いましたけど、NHKがTwitterでやさしい日本語で発信したり、あと我々の動画がYouTubeに載った時もそうなんですけど、外国人には英語じゃないの?ってコメントがつくんですよ。

いやそうじゃなくて、やさしい日本語っていうのがすごく有効なんです、それはあなたが実際に話してなくても、傍で見ている場合でもそういう目でやさ

しく見守ってくださいっていうことがある程度伝わらないと、茶々が入っちゃうんですね。

さらにそこからもう一步踏み込むと、ネガティブなコメントの中には、そもそも外国人なんだから日本語勉強してから来いよ、みたいなちょっとひどいコメントがついたりですね。でもそれって反転してみたら、我々が外国に行った時にそれぞれの国の言葉を完璧にマスターしてから行くなんてことはあり得ないわけで、それはやっぱり偏見だなと。

そういう偏見の緩和みたいなものを含めた、世間における認知度の向上、これが一番大きな課題かなとは思っております。

高尾:あとは専門用語をやさしい言葉にうまく置き換えられるかどうか、それを失敗してしまうとまったく逆の意味になるということは問題になっていたと思います。

村田:ちょっとさっき説明を端折ったんですけど、医療×「やさしい日本語」研究会ってグループの事例のところで、医療はオノマトペが多いんですよね。「頭ズキズキしますか?」「傷がジンジンしますか?」とか。なので、そのオノマトペの解説をやさしい日本語と多言語で作ったりしてる、と。

とかくちょっと専門用語になるとやさしい日本語だけでは突破できないので、そういう意味では、特に専門的な部分はやさしい日本語と他言語との組

み合わせ、併用みたいなあたりが共通する課題と言えるかもしれん。

高尾:ありがとうございます。

お時間となりましたのでこれで質疑応答を終わりにしたいと思います。この後はやさ日道場に移っていきたいと思います。一部だけご参加の方、ここまでお付き合いいただきましてありがとうございます。